婦女至寶 裁縫教授新書 全

375.9
Ma20
資料室

43385

教科書文庫

4
920
40-1896
20000
63471

の宿舍を申し付ける」と御申渡しに相成りました、伯龍も大に勇み立ち、早々悦んでお請けを致しました、そこで九月の四日より十月の十四日まで三十日の間と云ふもの第〇師團第〇中隊の砲兵上等兵吉光彦三氏、同輸卒阿部伊太郎氏の兩氏伯龍の宅に御滯在に相成りました、其の御滯在中伯龍は實地目擊いたしましたが、輸卒の上等兵に對するところの禮儀、また上等兵の伍長に對するところの禮儀、伍長が軍曹に對するところの禮儀と、一段々々上の者に對するところの禮儀の正しいところを見て、伯龍は實に感心いたしました、一寸煙草を喫んで休息して居られる間も其の區別と云ふものはチャンと付いて居りました、其の規律の正しいところを見て、成程是れであれば上官の命令を守ることは出來ない、是れでこそ戰場へ出ても、上官の心を心として、皆心を一致にして働き、連戰連

の宿舎を申し
に勇み立ち、
四日より十月
○中隊の砲兵
伯龍の宅は御
目撃いたしま
た上等兵の伍
ころの禮儀と
ところを見て
で休息して居
居りました、
れば上官の命
ゝも、上官の

中央図書館
資料室

3759
Ma20

大学
高等教
63471
書

校子咲田本師教門專縫裁

寶至女婦

裁縫教授新書

編女孝塲的

大阪武田交盛館發兌

明治二十九年八月新刊

◉裁縫の唱歌

◉裁縫の唱歌

女子の手業さはなれど　都の鄙もおしなべて
たかき賤きへだてなく　裁ち縫業を知り得べし
これの學びの第一は　一つ身だちと云ひかし
身丈けは二尺袖は尺　はよりとるは襟たくび
これを合せて惣丈けは　八尺をもて定めとす
其第二には三つみだち　もの惣丈は一丈と
三尺五寸をつまろでに　六尺をとりて其内で
襟を割りだし殘りたる　七尺五寸を三つにをり
うの折目をば右よりも　又左よりなかばまで
裁込み終りかねの手に　其まんなかをたち合せ
ひろき方にて衽となる　此裁方はいとかたし
両面ものにあらざれば　縫ふとならじ覺ゆべし
うの第三は四つみだち　まへ身ろら縫衽となし
後身よりはえりをとり　うう丈け一丈八尺と
心のうちにしるすべし　うの第四には本だちよ
このろうたけは一反と　定めてあれど人々の

身の長短と仕たてにハ　男をみなのわかちあり
れよう男はまへ身をば　先づ七寸に後身ハ
まづ八寸に身ごろをば　三尺あまり七八寸
袖を一尺四五寸に　かたゆき一尺七寸五分
れんな身幅は男より　後も前も五分つめて
三尺あまり六寸に　みごろのたけは四尺程
うでたけ一尺五六寸　かたゆき一尺六寸五分
襟とれくびは半はゞよ　されどれくびに棒鏈の
二様あるのは外ならず　丈あるものは棒にたち
丈なきものは鏈にたつ　これ縫方のあらましゞ
これを辨へ得しらずば　不自由至極のみならず
女子の道に欠けぬべし　思ひつとめよ乙女たち
學びはげめよ乙女たち

この唱歌は長野縣裁縫專門教師山田とし氏の日々に生徒に唱へしめ居るものなりといふ初學者能くこれを熟せば裁縫の糸ぐちとなりぬべし

婦女至寶　裁縫教授新書
高等裁縫專科教師　本田咲子　補校
出雲　的場孝女　編

婦女至寶 裁縫教授新書

高等裁縫專科教師 本田咲子 補校
出雲 的場孝女 編

○大意

裁とはタツとよみて衣服などすべて物をたつことなり縫とはヌフとよみて針もてぬひつづることなりそのたつことぬふことを合せて裁縫とは云ふなりさて一口に裁縫とはいへどその中には積るといふ肝腎のことをも含むことを知るべしこの積るを裁つと縫ふとの三つは離るべからざる業にしあればいづれを先きといづれを後にといふ分ちはなけれどおのづと次第順序あることなれば次にものしるしてこの道のおしへ草とすべきなり

○裁縫に用ゆる道具

先づ第一に覚ゆべきは裁ち縫ひに用ゐる道具の名とその用ゐ方となり今その重なるもの

よりこれを述べんに

●針　木綿針と絹針とあり又大小も定まらず其名も種々にあれども絹針は四ノ三、四、ノ四など木綿針は三ノ三、三ノ四、三ノ五などあり所よりては大チヤボ小チヤボ木綿チヤボなどもいへりいづれも縫ふべきものによりて擇むべきなり

●尺　通常は一尺のものを用ゐ中には二尺のものを用ゆるもあれどそゝ却て不便なることあり勿論その尺は鯨尺とゝるべし

●剪刀　これは平常用ゐるものなりあまりに尖のとがりたるはあしゝ

●指輪　ゆびさし又はゆびぬきともいふ皮又は金などにてこしらへたるなり

●篦　角にてこしらへたるあまり新しきはその品物を損ずるおそれあればなるべく使ひ馴れたるものを用ゆるをよしとす

●裁板　木理の細きあまりにかたかゝざるものを撰ぶべし長四五尺巾一尺二三寸厚一寸五分位なり

●篦墨　白紙を六七枚もかさねその中程をふ

使ひ馴れ〳〵るものを用ゐるをよしとす

●裁板　木理の細きあまりにかたかしざるも

のを撰ぶべし長四五尺巾一尺二三寸厚一寸五分位なり

●篦墓　白紙を六七枚もかさねその中程をふ〻ら〳〵うき貼にして用ゐべし

その他まだ火熨斗、鏝などいろ〳〵あれども初めに用なければここには略しぬ

○運針法

運針法とは針のはこび方つかひ方のこゝをいふ

その仕方は右の手の中指一のふしと二のふしとの間に指輪をはめさて親指とひとさし指との先きにて針をつまみ布片を持つときは食指はそのうらにおや指はその表ふして針とともふ持ちそへ他の三本の指はこれをかゞめ針の根を指輪ふあて左の手のおや指とひとさし指とにて布片の左をつまみよく行儀をたゞして両方の手を目八分ふおき右の[illegible]びと食指とをだん〻と左ま進め左の手ま[illegible]つまみたる所まで縫ひ終らは右ま[illegible]糸をのばし布片のちぐまぬやうふすべしすべて運針法ま

て大切とするところは針目の大きなるところ小きところ長きところ短きところなきやうに真直ふよくそろふたるをよゝと心得べゝ

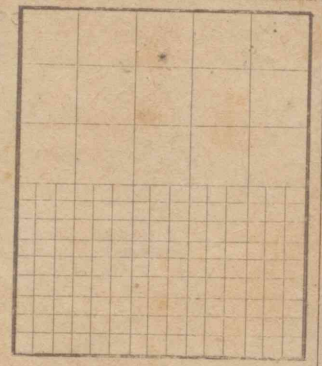
この針のはゞび方を学ぶには先づ雑巾をさすことを初めすべければ左まそのさゝかたを示すべきなり

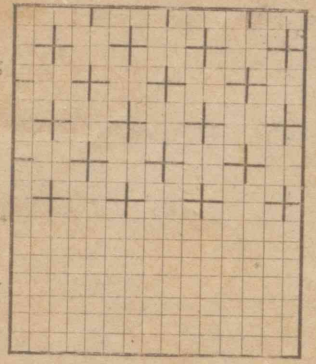
○雑巾刺

雑巾はふるき木綿などの布片を二重又は三重にして木めん糸もゝくはあさの糸をもてさすなり布片まよりて大小の差違はあれど初めの間はなるたけ一尺幅のものより始むべゝその刺し方にもいろゝあれば次まに図をもて示すべゝ畢竟するところ針のはゞび方を達者ゐ且つ上手ゐせんとの糸口なれば唯だゝゝ雑巾なりとて粗畧まはすべからず先づ各々の好む所の形によりて尺と箆とを持ちて布片の上にあとをつけ糸目のゆがまぬやうに波うつことのなさやうに大小不同のなさやうゐよくゝ心すべきことなり

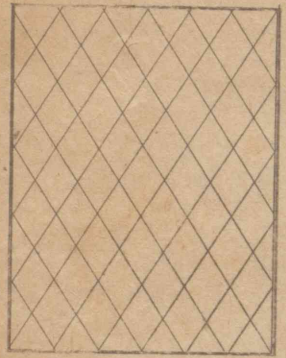
此の図を十字刺と心ふ先づ上邊の如く縦横同じすの線を箆そあとをつけ更に下邊の如く線と線と

波うつことのなさやうに大小不同のなさやうに
よく〳〵心すべきことなり





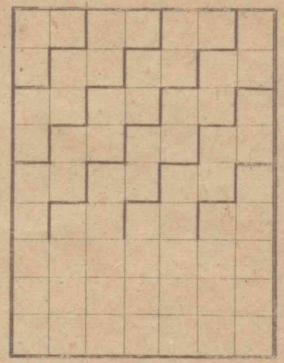
此の図を十字刺といふ先づ上邊の如く縦横同じ寸の線を篦まそあとをつけ更に下邊の如く線と線との間を三つづに同じやうにあとをつけ下ふ図せるやうにさすべきなり前ま示せるが如くすゝとき八上ま図せるやうにかるべし既まあとをつけ終ればそのあとをつたふて縫ふべきところだけ際目たゞしくぬふこと〳〵知るべし図中のほそきすぢは前の図ふ示せしところの篦あとにして上の方なるふときすぢハ縫目なり斯の如く縫ひおはらば正しく十字の形となるなりもし篦をつかふときに少しにてもすゝがひたらば出来あがりし十字ふ大小のそろはぬことゝなりて見苦しきものなり是等が針の運び方ふ大切なることゝふり猶ほ二タ筋の糸ふて縫ふときは糸のよれぬやうに心がくべし ＝＝＝



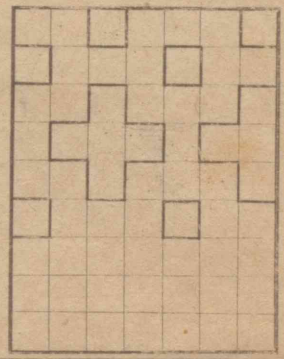
たてぶ〳〵

かやうになりたるは奇麗なるもかやうになりたるは見苦るし、以下はみなこれに倣ふべきなり

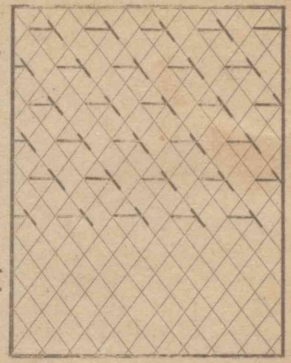
だんはゝこ



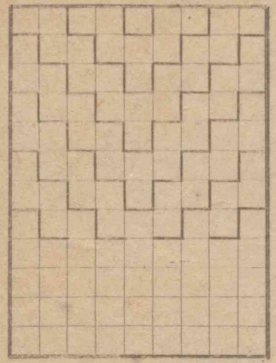
ちきりかた



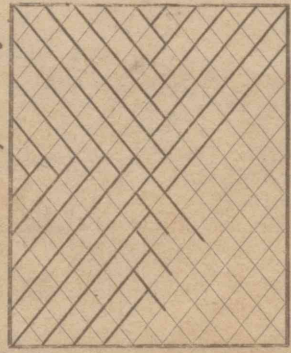
ちぎりかた



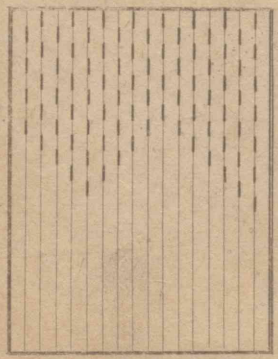
九つならべ



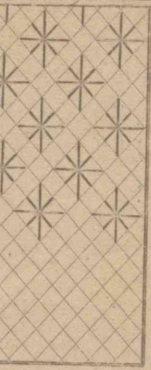
あドろがた



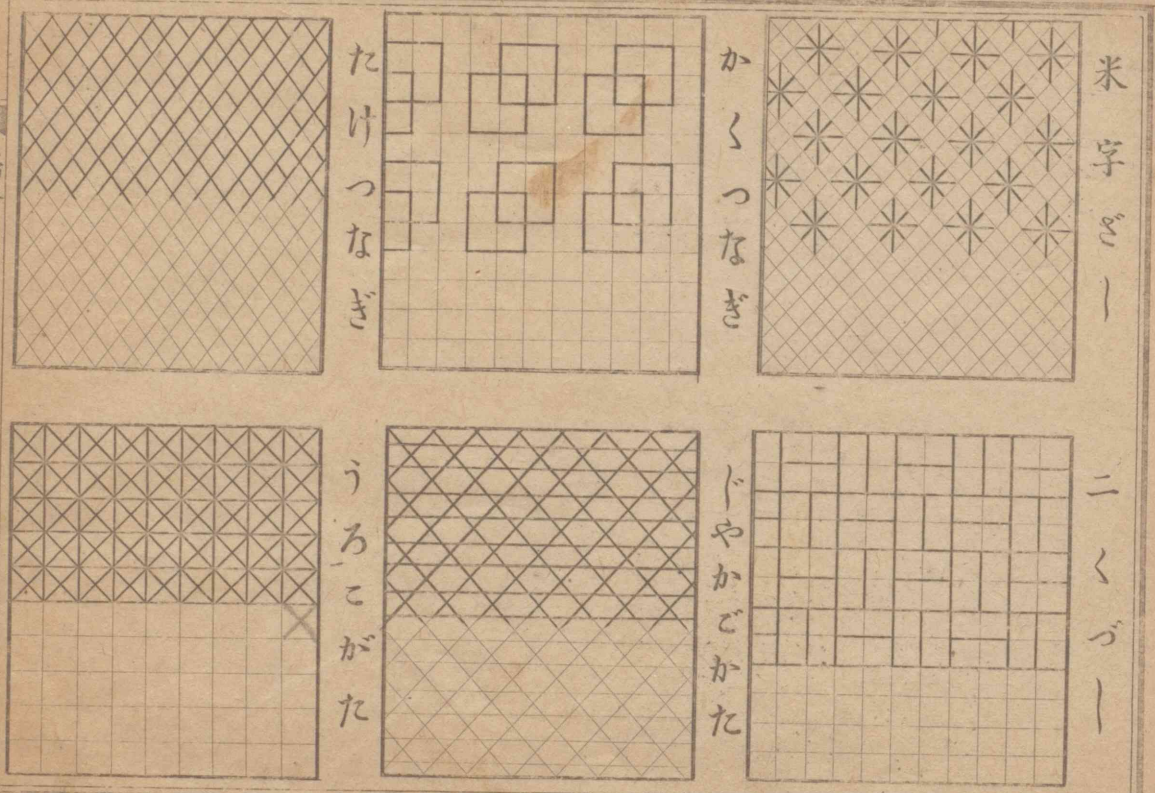
やなぎさし



米字ざゝ



二くづゝ


米字ざし
かくつなぎ
たけつなぎ
二くづし
じやかごかた
うろこがた

これまでは雑巾のさし方よりきその図をあしたるものなれどもこれとて必らず以上にかゝぐるものに止まらず様々と工夫して図様をつくりいだすこそよけれ去ながら運針法に熟練するには以上の如き縦、横又は斜などいろ〳〵の針のはこびを達者にすることこそ第一のつとめと知るべし

既に雑巾のさし方に熟せば次には拭巾を刺すことを学ぶべし〳〵これも雑巾とかはることはなけれども拭巾ハ多く白き布片を以てするものなれば丁度手習をするに黒き草紙によく〳〵習ひて後ち白き紙に清書するが如く中々に功あるものなればなり

さて拭巾のさし方は前まゝのせしが如く雑巾と同じく初めに箆まて図様をあとつけゆき或は赤或は黄、緑、紫など色々の糸にて如何にも手奇麗にすることを心掛べし

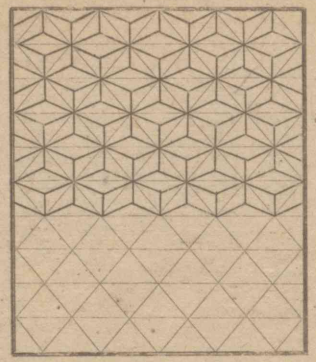
図様は雑巾とかはることはなけれども稍々上品なるをもしとすれば左ハ五つ六つを示さん併し初めは易きものより始むべきことにぞある

あさのは

この麻の葉の図などはありふれたるものなれども初め

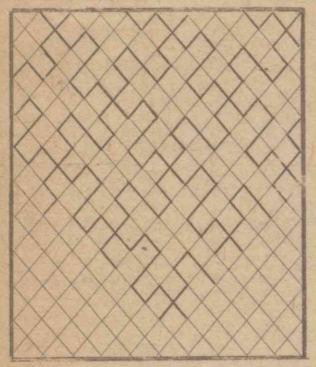
〻〻とすれば左ハ五つ六つを示さん併し初めは易きものより始むべきことにぞある

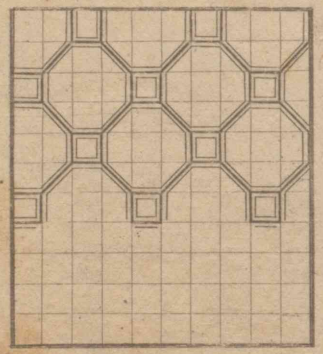
あさのは



この麻の葉の図などはありふれたるものなれども初めの斜線と横線とは赤糸にてその他は緑色の糸などにて刺すときはうつくしゝ

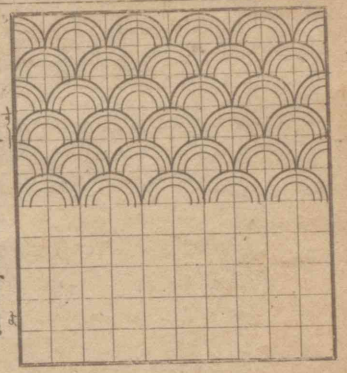
下の図は二重にしきのさし方なり太き一ト重は二度ざしにてこれハ漆ふたゝ細き筋は一度ざしなり色ちがひの糸にて刺せば美事なり





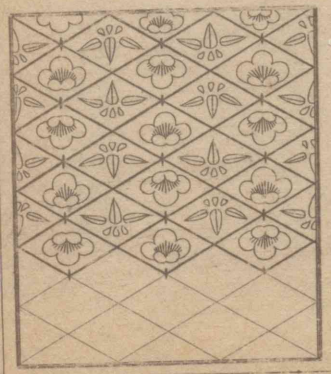
上の図は万字くゞしといふ細かきほどうつくしく見ゆるものなりこれはつとめて間の明方のよゝ揃ふやうにすべし

せいがいなみ



この図は縦横のすぢふよりて刺すと上にもあ〻たるがそとくなれども中々に図をひくのみまそもむつかしければ波のかたは厚き紙にて大小よきりあきこの形をあて〻線をつけふば能くそろふて美くしきなり、同じ波にても斜線をもとゝして図をひくものあり却つてやすく出来るものなりそゝには略しぬ

すべて丸き形などはみな厚紙を切りてそのかたをつくり扨くをもしとす何とるればたゞ縫やうのみならず次に示せる手拭及び風呂敷などゝ共に謂ゆる美術に属するものなればふりこの他いろ〻にあれどもあまりふくど〻しければ略せり学ぶ人おの〻図様を考へ出さばいと面白き事まそあるなり

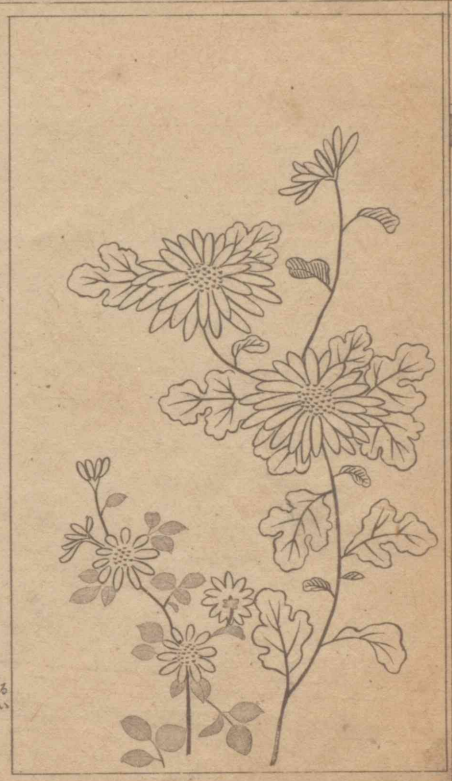


手拭「ハンカチーフ」及び風呂敷などはこれよりはまださきにて授くべく習ふべきものなれども図様のついでなればそゝにて述ぶべし手拭及びハンカチーフはた

手拭「ハンカチーフ」及び風呂敷などはこれよりはまださきにて授くべく習ふべきものなれども図様のついでなればこゝにて述ぶべし手拭及びハンカチーフはたのしみの一つゝ縫ふものなれば或時は歌などの文字をかきてそれをさし或時は種々いりくみたる繪などをかきて縫ふものにてこれは刺すのもあれども又かぶせ縫すくひ縫など小縫ふことありその縫ひ方は後の條にて示すべし、風呂敷はその端を前に示すが如き図にて縫ひ又はすろことありそりわけむつかしきは紋を縫ふことなり是も亦かぶせ縫すくひ縫などの縫方あり大きなるものに至りてはその巾を抑ざしにさすことありそは次に示すところの脊紋のさし方など見合すべし、又足袋のうらなどをさすも雑巾及び拭巾をさすが如くすべきなり

今左にハンカチーフの図様を一つだけ示さん菊の花は黄色の絹糸を用ゐ葉はみどりを用ゐるなど工夫してさすべし尤も花はさすよりは縫ふたる方まさるべし別て糸のみだれぬやう心すべし

きばいと面白き事すぞあるなり



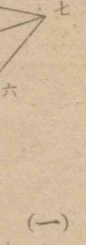
前にものべたるが如くこのハンカチーフなどの類は中中ふむつかしきものなればはじめよりは真似るべからず餘ほど針のはこび方にぢゐくして後のたしなみとすべきなり

○脊紋の縫い様

脊紋もまた運針の一つとして学ぶべしその縫ひやうは別に前の拭巾などにかはることなけれども唯だ一つ丈の紋なれば殊にとく目立つものなり能く心をつけて針のまはし方を際だつやうにすべし

さてそのさしかたは初めに紙などにその模様をかきてほどよき所にあて其すみ〳〵をへらもてあとをつけ置き紙は之をとりのけつぎに糸目たどしくさすなり

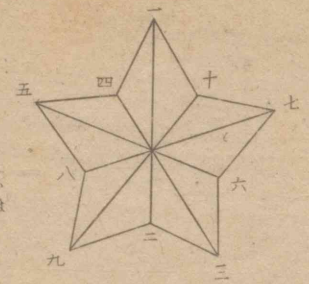
その法たとへば桔梗のもんとせんに



(一)のうらより針をはじめ(二)に通

さてそのさゝかたは初めに紙などにその模様をかきて
ほどよきところあて其すみ〳〵をへらもてあとをつけ置

き紙は之をとりのけつぎに糸目たゞしくさすなり
その法たとへば桔梗のもんとせんに



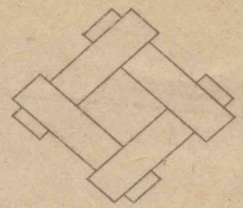
(一)のうらより針をはじめ(二)に通しうらより(三)のところに出して(四)ホ至り裏より(五)ヨ出して(六)ホ至り又うらより(七)ヨ出して(八)に至り(九)に出して(十)ヨ至りこれよりて中のすぢは終りたればそれより針を(七)に出して(六)に(三)ヨ出して(二)に(九)ヨ出して(八)に(五)ホ出して(四)に(一)に出して(十)に至り再び轉じて(一)に出して(四)に(五)に出して(八)ホといふが如くせば全く桔梗の紋をなして裏もさまで見ぐるしからぬものなりこれをその本式とす

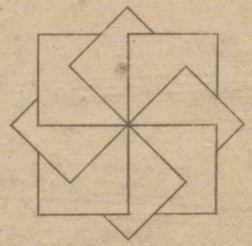
別に又うらより(一)に出して(五)にさしこれを(九)に出して(三)にさしこれを(七)に出して(一)ホさし(五)ヨ出して(九)にさし(三)ホ出して(七)にさしこれをして五角の形となる尤も糸を少しゆるくすべしさてその針を真中に出して(七)(一)間の糸をすくひ(十)にさして(九)ヨ出し真中にさしてこれを(四)に出し(一)(五)の糸をすくひて(三)ホさし次第〳〵にかく

の如くして作るもありいづれにてもよろし唯だ手ぎわよくして幾度も針をかさねるに糸のみだれざるやうすべきなりこの以下は皆これふならふべし左にその紋図を示して考へ合さしむ猶ほ色糸など交じへ用ゆるをよしとす

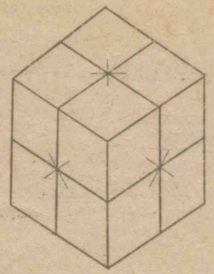
此の次に示すところの紐留も亦そのさし方は脊紋のさしかたとことなるところなし、すべて脊もん及び紐どめとも男女によりて心をつくべきなり

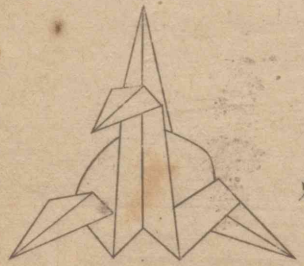
る づゝ　石だゝみくるま





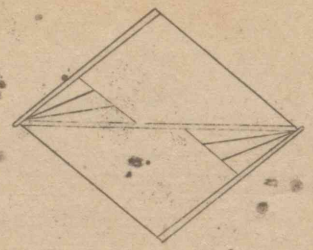
三つびし　をり鶴



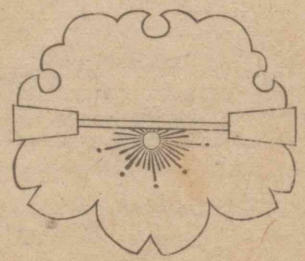


れ ふぎびし　雪月花

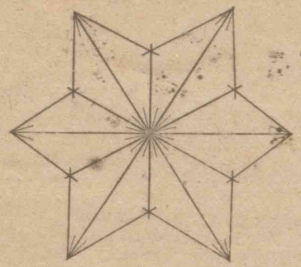
れ　ふぎびし



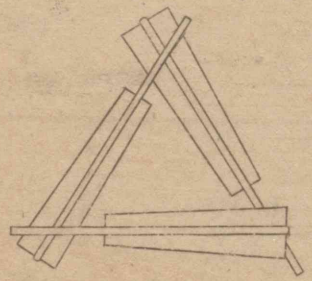
雪月花



あさ〻の葉



三つあふぎ



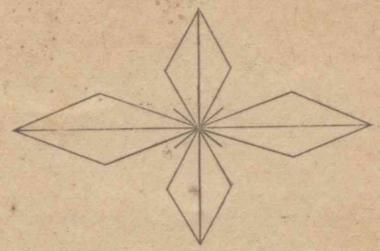
右につらねたる外これまでありふれたるものなど數れほけれどもすべて略しぬなるべく新らしき紋をかんがへ出してさすことをつとむべきなり

○紐留の方

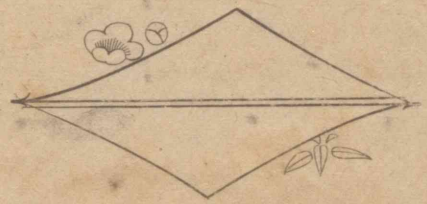
紐どめといふは子供の紐をつけたるときにあまりすげなきためふさすものにしてまゝは飾りといふて然るべ

きものなれば是亦手際よくさすべきなりあかしあまりに入りこみたるはあしゝいづれも横に長き紋をよろしとすこれもそれそれ工夫すべきことなれども左に二三を掲げ去めさん

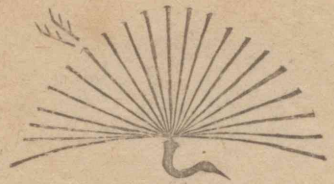
麻びし



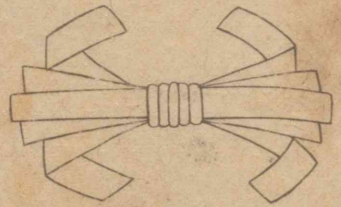
松竹梅



松つる



むすびのし



○縫ひ方

前にのべたる所にて既ふ針のつかひ方も分りたればこれよりは縫ひ方紉方など学ぶべし而して縫ひ方にもい

○縫ひ方

前にのべたる所にて既ふ針のつかひ方も分りたればこれよりは縫ひ方術方など学ぶべし而して縫ひ方にもいろ〳〵の口傳あればその重なるものを左につらねて示さんとす

一ひと針ぬきといふは表よりうらへ裏より表へと一針づゝぬきては縫ひぬきては縫ふことをいふ

一雄ぬひといふは表へ糸目の出ること少なきものをいふ

一雌ぬひといふは雄ぬひと反對にて糸目の表へ多く出でたるをいふ

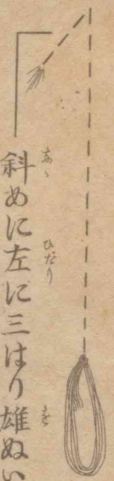
一めをと縫といふは表へ糸目の出ること或は少なく或は多きをいふその様左の如し

一戻しぬいといふはすでに縫ひたる所を再びもどして縫ふなり

一合せぬいといふは二枚を一つにして縫ふことなり袷などを縫ふとき多く用ゆ

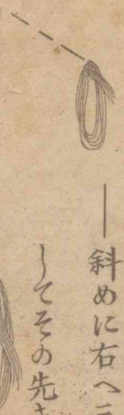
その外割りつぎとて二つの布片をつぐに用ゆることあり
これはつとめて細ばりにして縫ひたる所を両方へ折
るをいふ猶ほ伏せ縫、掛つぎ、星縫などいろ〳〵あれ
ども皆その入用のところにて示さん
序に示し置くべきは小児の衣服に守り縫といふことあ
りこれは五色の糸にて縫ふことにてその糸の長さは衣
服の丈と同じやうにしさて衿ぎはより十二針縫ひその
端は結びかくなり而して男女によりて殊なるところあ
れば左に図して示さん

男



斜めに左に三はり雄ぬいふしてその糸のさきは切りはなすなり

女



斜めに右へ三はり雌ぬいにしてその先きを輪むすびにするなり

是より縫方を示すべきなれども順序をいへば最初はひもの紵け方を習ふべし紐をくけるには先づ布片を二つに折りてその思ふ巾のきるしを付けてこれを折りもし

心を入るゝものなればその心を門ふの方の縫こみに一つふくるみ先づ左と右とのかしらをぬふてその心を綴ぢつけそれより二三分又は三四分づゝに紵けるなり初

もの縫け方を習ふべし紐をくけるには先づ布片を二つに折りてその思ふ巾の志るしを付けてこれを折りもし

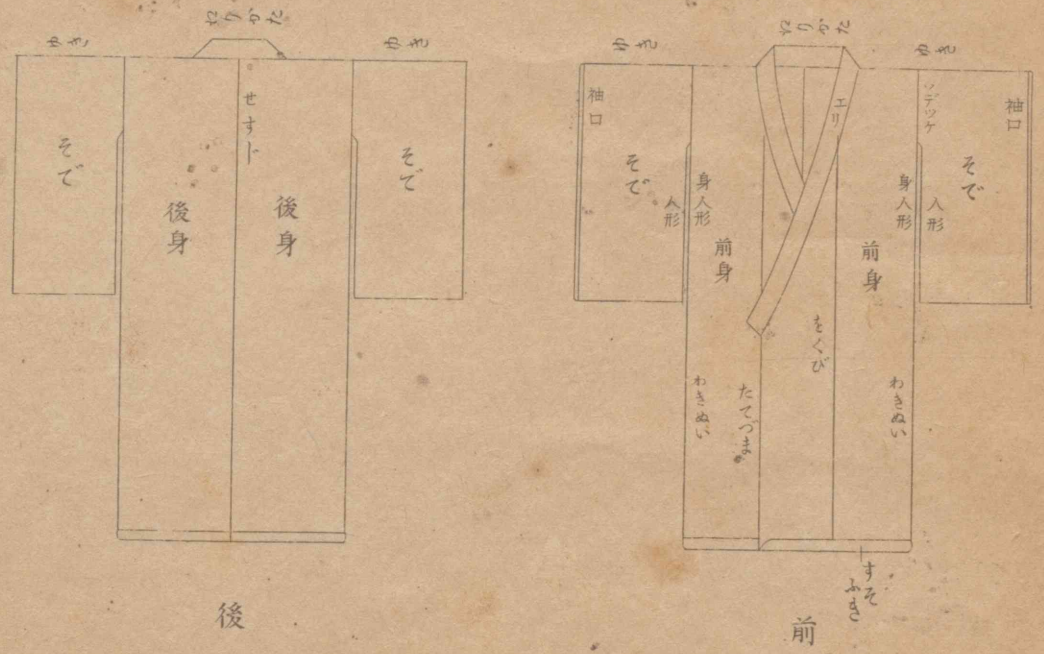
心を入るゝものならばその心を門ふの方の縫ろみは一つふくるみ先づ左と右とのかしらをぬふてその心を綴ぢつけそれより二三分又は三四分づゝに縫けるなり初めの間は巾ホ不同が出来たり曲りたりすることあればよく心をつけてすべし就中心はたゆみの出来るときは見ぐるしきものなれは能く心をつけて手ぎはよくすべし既にくけ終らば押をしてわくなり

その次には端縫なり前垂や風呂敷や腰巻などのはしを縫ふことを学ぶべし、すべて端ぬひはその布片のはしを一分ほどに二度折りて裏の方にをりこみ能く曲らぬやうに縫ふべし而して端ぬひホ又くけることもありそはその品によりてことなることゝ知るべし

○衣服の名どころ

是より衣服の裁ち方、縫ひ方を示さんに先づその名を知らざるべからず左ま之を掲ぐ

前身　後身　衿　衽　衿方　袖　肩行き　丈け
袖口　袖付　人形　身人形　腋　衿下　裾　背
ふき　紐付　等とす



衣服の縫方

凡そ順序によりて云ふときは先づ縫方の次第を知り次に鏡つけを覺へそれより裁方にうつるべきなり然れども斯の如

●衣服の縫方

凡そ順序によりて云ふときは先づ縫方の次第を知り次に鋏つけを覺へそれより裁方にうつるべきなり然れども斯の如くするときは却つて分りにくきものなれば裁かた縫方を一つに示さんとす

さて裁方は中々にむつかしきものにて若し一トはさみを違ふときは衣服となること能はざるものなれば初めによくその反物又は布片の寸尺をはかりてこれをつもり假にしるしをつけおきて後に剪刀を入るべきなり

すでに裁ち終はらばその寸尺をかんがへて鋏つけをなしそれより始めて縫ふべし

初めて學ぶ人は最初より衣服の裁ちぬいにはとりかゝらずして先づ袖のこしらひ方、裾のつけかたなどを稽古するをよしとす今これを一々に分ち示さんには混雜のおそれわればその時々に至りて詳しく說き示さんとすよろしく心を用ゐてあやまることなかるべし

猶ほ裁ち方にもいろ〳〵あり又短かき布片を以て能く裁つの便利もあれば併せ示して考がへしめん

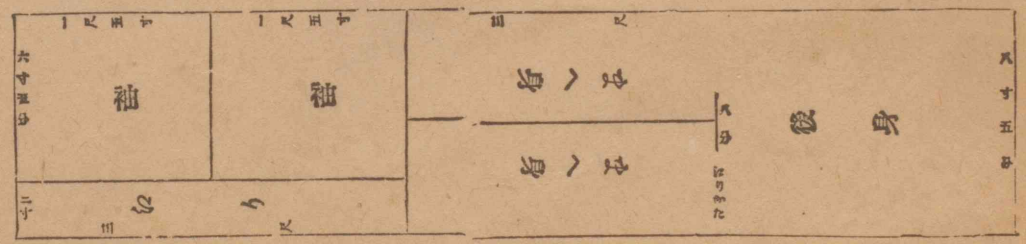
○一つ身編袢

長さ六尺巾八寸五分

●裁ち方

三尺を以て身ごろとなしてこれを切りはなし餘の三尺にてえりと袖とをとるなりその方は先づ幅二寸を左右ともよくそろへて折り目をつけこれを衿として切りその餘　二つに分ちて左右の袖となすこと圖のごとし、身ごろは二つに折り前身のところは眞中を二つに切り更に衿方を左右へ四分づゝ合せて八分切るべし

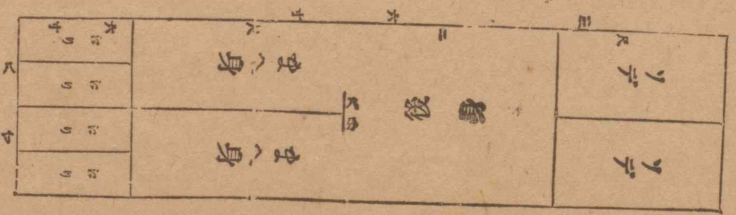
右に示せるものはその本法なりといへども生れ子に被せるものはかくまで大きからざるもよろし則ち左に圖せるが如く八寸巾のきれ三尺六寸にて裁つもよろし通例は多くこのたちかたを用ゆるなり



即ち一尺を袖としてこれを縦に二つに切り二尺を身ごろとして一尺のたけとすさて衿は六寸のきれを四つに切り

即ち一尺を袖としてこれを縦に二つに切り二尺を身ごろとして一尺のたけとすさて衿は六寸のきれを四つに切りつぎ合して二寸巾のねりとするなりその外の仕様は前とことなることなし

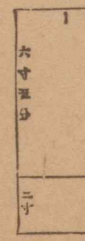
その仕立方と前のも皆同じことなれば後のものにつきて示さんに袖口は四寸五分ずなはち一尺の長さを二つに折り五寸となるを五分を縫いしろとするなり長きものも亦この例によるべし、身の八つ口は二寸五分馬のりは二寸えり巾は八分とするなり



縫方

これよりぬい方の順序を示さんに最初に袖をこしらへることは申すまでもなくそれより身ごろを取りて袖つけの方を二分ほど殘しその他は淺くぬふて引きかへしうらの方を見て袖たけのしるしの方をぬい又引きかへして表を出し袖巾のしるしをつけ八つ口をくけ次に後巾のしるしをつけ馬の

よろし通例は多くこのたちかたを用ゆるなり



りのところより身のやつ口の所まで脇ぬいをなしその縫ひ目は前身ごろの方に折をつけ次に馬のりの方をとぢつけ裾口は前に示したる端ぬいと同じく二分くらゐの巾に三つにをりて之をぬいそれより袖をつけ八つくちをとぢ次に前はゝのしるしをつけて衿を縫ひつけその縫目はえりの方に折をつけてえり巾のしるしをなし衿先のぬいこみとなる所を一分ばかりに中にてぬいその縫目をうらの方に折をつけて衿をくけるなりもし中えりなどかけんとおもはゝ一ばんのちにすべし

この次に二つ身三つ身などわれどそは大抵同じことなればこれよりは四つ身じゆばんの裁方および本身襦袢のたちぬい方を示すべし但しその縫方は一つにつき示せば餘は推して考へ合すべし

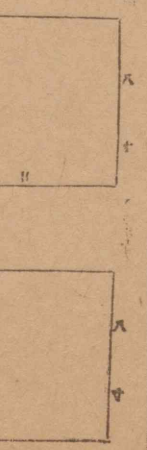
○四つ身襦袢

長さ一丈一尺六寸　巾八寸

○本身襦袢

長さ一丈五尺　巾八寸

下に示せる圖の如く四つ身襦ば



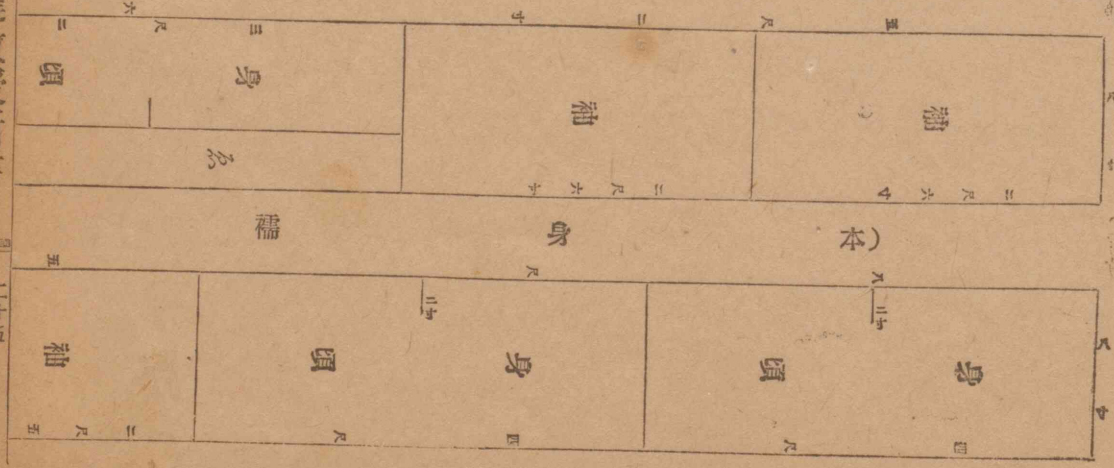
○本身襦袢

長さ一丈五尺　巾八寸

（四）

下に示せる圖の如く四つ身襦ばんと五尺二寸にて両そでを取り殘り六尺四寸の一方にて巾二寸五分を縦に切り取りこれを衿とつなす而してその殘り五寸五分巾長さ六尺四寸は身二つに切りて両身にあつるなりかくすれば一尺六寸が全くの身のたけとなるなり衿肩は一寸をあけるものと知

（本身襦袢）



るべし

又本身襦袢も圖の如く八尺を以て身ごろとし又これを二つに切り二尺を身のたけとなす而して衿かたは二寸と定むるなり袖は五尺を以てあて二尺五寸づゝを両そでとす即ちそでのたけは一尺二寸五分にして内五分はぬいしろとすべし衿は二尺の長さを眞中より二つにわり用ゆるものにして四寸巾のもの四尺がこれにあたれり

●四つ身襦袢のぬい方

今こゝにぬい方のあらましを示さんに先づ袖を縫ふなりそのぬいやうは表より一ばいにぬひこれを裏よりぬひかへすなりこれを終れば脊すぢを縫ひ次にわき筋をぬふ脇すぢと

ぬいつめずして裾のところを二寸四五分あけ又やつ口も二寸五分あけてそれより袖をつけるなりその寸法はおよそ五六寸としるべし右を終れば裾をはしぬひすると同じ

のぬいやうは表より一ぱいにぬひこれを裏よりぬひかへす
なりこれを終れば脊すぢを縫ひ次にわき筋をぬふ脇すぢと

ぬいつめずして裾のところを二寸四五分あけ又やつ口も二寸五分あけてそれより袖をつけるなりその寸法はおよそ五六寸としるべし右を終れば裾をはしぬひすること前の一つ身と同じこれにて襟をつけるに四寸餘たらぬところ出來るべければ下た前のはし又は左右のはしに同じほどづゝ外の布片をつぎ足すべしそしてこの衿とゝ一寸一分の巾に曲らぬやう紵るものと知るべし

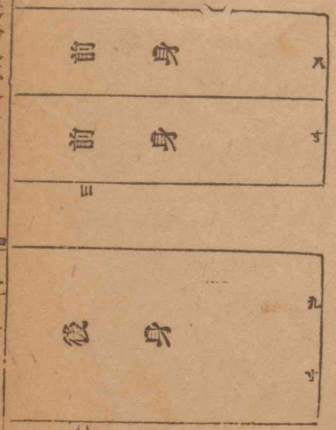
○小一つ身單物のたち縫

長さ六尺　巾九寸

これにも二つのたちかたあれば共にこれを示すべし而して下の圖の方をよろしとすれどもし布片が八寸巾なるときはよんどころなく上の圖によらざるべからず

裁方

上の圖は身ごろを三尺四寸取り次に一尺二寸をそでにあて縦に二つにたちて両のそでとな



すさてその殘りたる一尺四寸にて巾四寸四分をたてに裁ち切りて衽となす衽は右一寸よりたるところより左一寸寄りたることろへ斜めにたつをよしとすしかるときは三寸のおくび下りとなるなり、殘り巾三寸六分のものわるべしこれを二つわりにして襟となすべしそのつぎ方は前に示したる割りつぎをよろしとす則ち一寸八分の襟を得るにより八分巾のゑりとしてあまりわるはゞなり

衿肩は一寸を通例となせり下に圖せるものも亦同じことなればこゝにこれを略しぬ

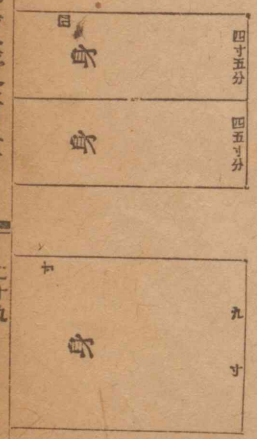
たる割りつぎをよろしとす則ち一寸八分の襟を得るにより八分巾のゑりとしてあさりわるはぞなり

衿肩は一寸を通例となせり下に圖せるものも亦同じことなればこゝにこれを略しぬ

●同じく縫ひ方

豫めそで付け及び八つ口などの筐つけをなしてそれよりわき縫ひを爲し両方ともおはらば衽をつけるなり衽は細き方をかしらとなし巾一ばいにつけて後ちに裾をぬふ裾のぬひやうは前に度々示したる如く端ぬひのするなりこれを終らば衿をつけるなりこの付け方は褄口を四寸位れくび下りを三寸として一方を縫ひ付け八分のえり巾にくけるべし既に衿もつければはらば前以てこしらへたる両袖をさきにへら付けせし如くにつけてそれより八口をぬひまわしこれにて全く出來あがりたるなり

序に示さんはれくびをつけるにその一方は裁ち口にて糸のそゝけることあれば前に袖の縫ひやうにて示したる如くに二度ぬふべしその縫やうは表と表をそとにして一ばいに縫ひそれよりか



へしてふたゝびぬふなりこれ等のこ中とはいつも〳〵あることとなればかさねては示さずよろしく覺へれきていつも其やうにすべきなり

中一つ身の圖

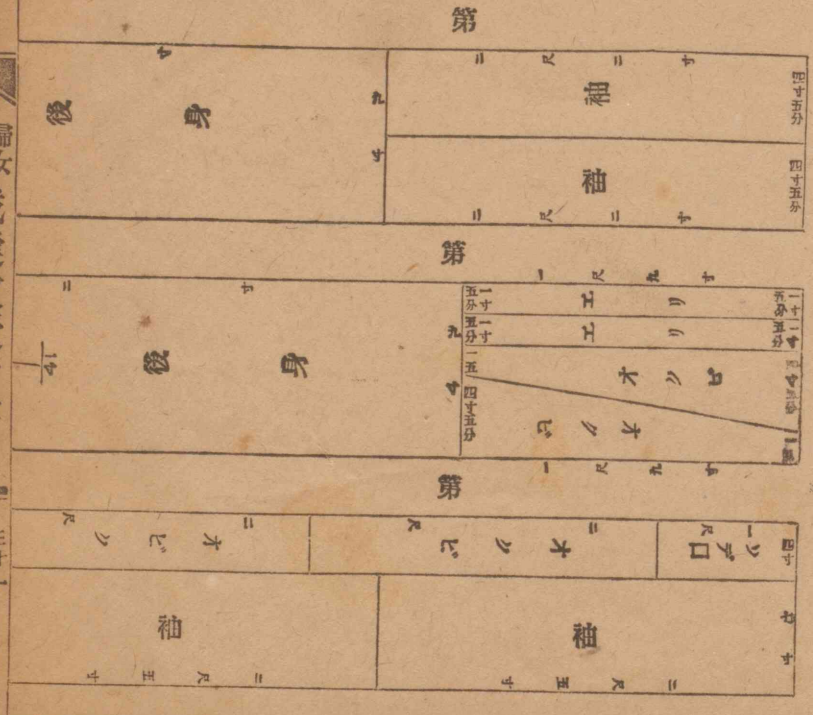
下に圖せる物も其縫樣はかゝらねばこゝには略しぬ

大一つ身の圖

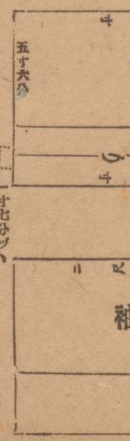
これより中一つ身および大一つ身の裁ち方を下に圖もて示さんとすいづれも前の如くなれば巨細は略せり唯だ中一つ身は長さ八尺四寸の布片大一つ身は長さ一丈二尺にして共に九寸巾の布片と知るべきなり

八尺四寸の布片大一つ身は長さ一丈二尺にして共に九寸巾の布片と知るべきなり

是より更に一つ身のたち方にさまゞあることを示さんにいづれも格別にかはりたるなければひとつに圖を示めして後にそのあらましを說かん



ば巨細は略せり唯だ中一つ身は長さ



以上の三圖中にて第一圖は中えりの裁方といひ第二圖はひろ衿の裁ちかたといふ二つながら九寸巾のきれ八尺三寸にてたつの方なり尤もこの第一圖はえりはつぐにおよばねどもそのため方はよろしからず若しこれをたゝんとならば初めによく寸法をぎんみして前身及びれくびのまがらぬやう心すべきなり

てたつの方なり尤もこの第一圖はえりはつぐにおよばねど
もそのため方はよろしからず若しこれをたゝんとならば初

めによく寸法をぎんみして前身及びれくびのまがらぬやう
心すべきなり

第二圖のひろ衿のたち方はよく用ゆるなりこれは八尺三寸
よりは九尺又は九尺五寸の長さなるきれにて裁つ方ことに
よろしとすかく寸法のことなるとも裁ちかたにはかはるこ
となければその割合にてたつべし

さて第三圖の裁ちかたなりこれは絹布にてたつの法にして
すべて絹布のるゐは巾も廣くして一尺一寸はあるものなり
且つ平生は着るもの稀れなれば少しの布片をおしみて不恰
好にすべからず少なくとも一丈は要すべきなり此處に圖せ
るものは即ち一丈のきれにて巾を一尺一寸とさだめて示し
たるものと知るべし勿論衿、綿入とも同じことなり

先づ一丈の半分五尺を以て身ごろ及び衿にあてゝこれをき
りはなしその餘りを袖とおくび并にそで口となす袖は七寸
巾として上下をよく合せて縦にこれを切り猶横に二つにし
て両のそでとなす而してのこりの四寸巾二尺づゝをおくび
となし合せて四尺の長さを切り取り猶ほのこれる一尺を袖
口にあつるなり次に前に切りはなしたる五尺のきれを取り

二寸巾に眞直に縱に切りてこれを衿となしその餘の九寸巾五尺は身ごろなり次に五尺の身ごろを横に二つに折猶ほ縱に二つに折りてその両方の折目のところを一寸丈け切りてこれを衿かたとすしかしてそのえり肩のまんなかより一方二尺五寸を縱に切りてこれを前身とするなり

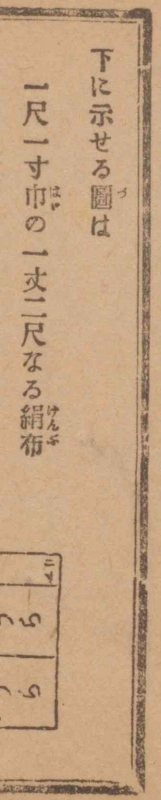
裁ちかた既に終ればぬひ方なり縫方は前に示したるものとことならず唯だこゝに注意すべきはすべて絹布のるゐはその耳のはりたるものなればそのまゝにては縫ひにくきものなり因つてその耳を斜めに凡そ一寸又は一寸五分位づゝあけてはさみを入れ切るべきことなり然れゞ決して中にたゆみなどの出來ることなくてよろし

以上に示すものは專ら單の一つ身なれども衿もしくは綿入などにては多少の違なきあたはず何となれば共はつかけといふものゝ如きはかならずも同じ布片にてたゝざるべからざればその裁ち方もおのゞからことなるべきなりよりて左にこれを示すべし

これにも亦そのきれの寸尺と巾とによりて樣々あれども左に二樣だけをかゝげん

下に示せる圖は

一尺一寸巾の一丈二尺なる絹布



これにも亦そのきれの寸尺と巾とによりて様々あれども左に二様だけをかゝげん

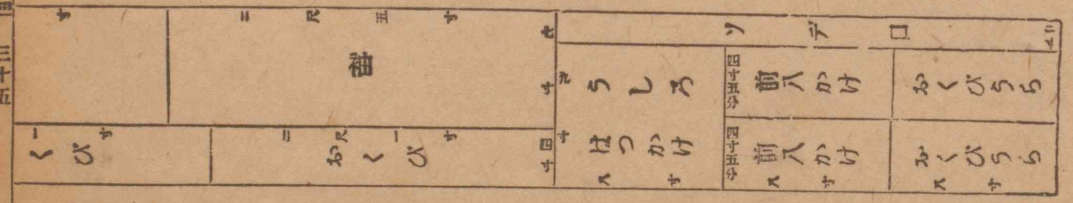
下に示せる圖は

一尺一寸巾の一丈二尺なる絹布

にてたつの方にして身ごろを四尺六寸としそでを二尺五寸づゝとしその餘を三つわりにして一分を後八つかけとなし一分を二つにわりて前八つかけとなし一分を又二つにわけておくびうらとなすなり尤もその一方にて袖口をとることは圖のごとしと知るべし、袖の一方はおくびをとるの用となしこゝにて四寸巾のもの八寸のこれりこれはそのきれなりと知るべし

この縫かたは裕もしくは綿いれのところにてくわしく示すべしといへども左に裏をたつことにつきて知らざるべからざることをかゝげん

裏はもとより表に合せてたつべきものなれば新らしくいふまでもなけれども



その心得べきは左のかぎ〳〵なりとす

一 八掛のながさに合せてたつべき

一 男と女とによりてことなれり何となれば女と男よりつまを長くするによれり

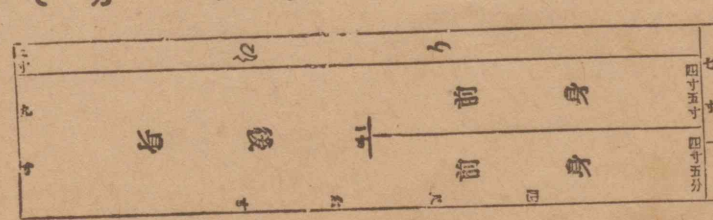
一 男の衣ものなれば凡そ四分を長くすべし

一 女の衣ものなれば凡そ一寸を長くすべし

一 袖のうら巾は男と女とにかゝはらず凡そ五分を大きくたつべしもしたもとそでなれば三分大きくすれば可なり

この他のこまゞなること及び縫ひ方は袷のぬひかたを示しところにれねてかさねてこれをとかん

猶一法ありこれは大一つ身の八つ掛つきにて九寸巾のもの一丈六尺一寸にてたつことを示したるものなりとしるべし

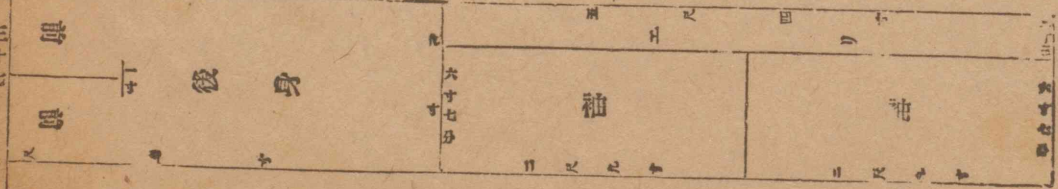


し

この裁ち方は極めて分りやすくして殊

し

この裁ち方は極めて分りやすくして殊によき方なり圖に示したる如くに先づ五尺八寸をたちきりその一方にて巾を二寸三分にて裁ち去りこれを衿となしのこり六寸七分巾五尺八寸を二つに切りて両のそでとなす即ちそでの丈け一尺四寸五分となる、それより四尺七寸をきりてこれを身ごろとなしその半分をたてに巾を同じやうに裁ちて肩入れを一寸わけ即ち背たけ二尺三寸五分となるなりそれより長さ二尺一寸を以て二つわりとなしておくびとしこれにてわまり三尺五寸となるこれを八掛及びおくびうらとなすそのたち方は一尺一寸をうしろの八かけとなし又一尺一寸を二つにたてに裁ちて前の八掛となしその餘の一尺三寸を二つにたちて両の

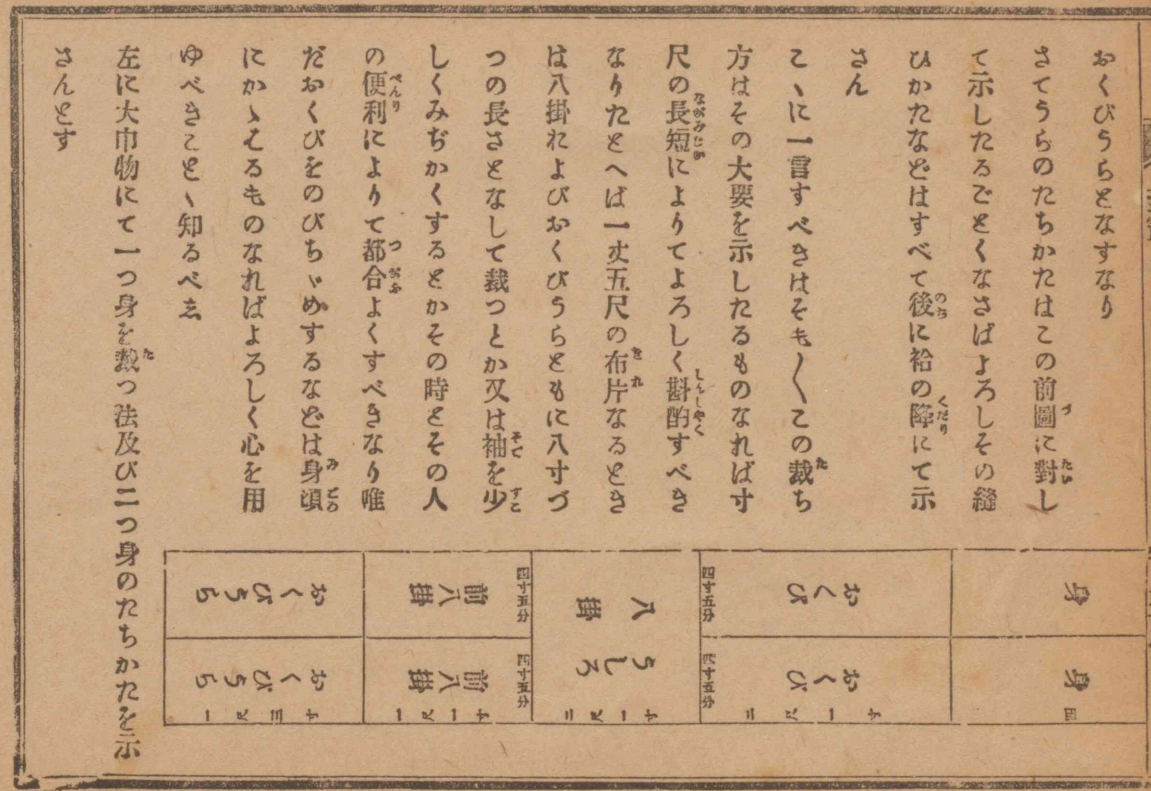


おくびうらとなすなり

さてうらのたちかたはこの前圖に對して示したるごとくなさばよろしその縫ひかたなどはすべて後に裕の陣にて示さん

こゝに一言すべきはそも〳〵この裁ち方はその大要を示したるものなれば寸尺の長短によりてよろしく斟酌すべきなりたとへば一丈五尺の布片なるときは八掛れよびおくびうらともに八寸づつの長さとなして裁つとか又は袖を少しくみぢかくするとかその時とその人の便利によりて都合よくすべきなり唯だおくびをのびちゞめするなどは身頃にかゝえるものなればよろしく心を用ゆべきことゝ知るべし

左に大巾物にて一つ身を裁つ法及び二つ身のたちかたを示さんとす



大巾物にて一つ身の裁ち方

上に示したる大巾ものにて一つ身を

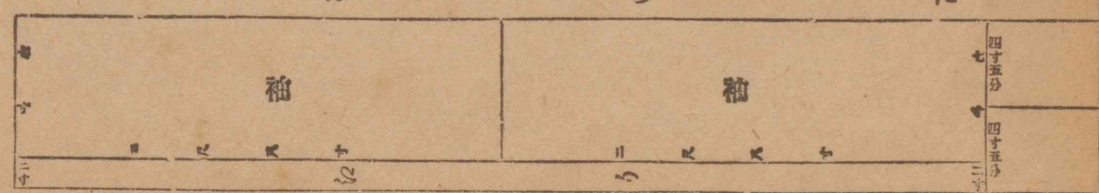
左に大巾物にて一つ身を裁つ法及び二つ身のたちかたを示さんとす

たつ方は二尺一寸巾のきれを五尺もて圖の如くにたつなり能く分り得べきものなればくわしくはこゝにしるさず

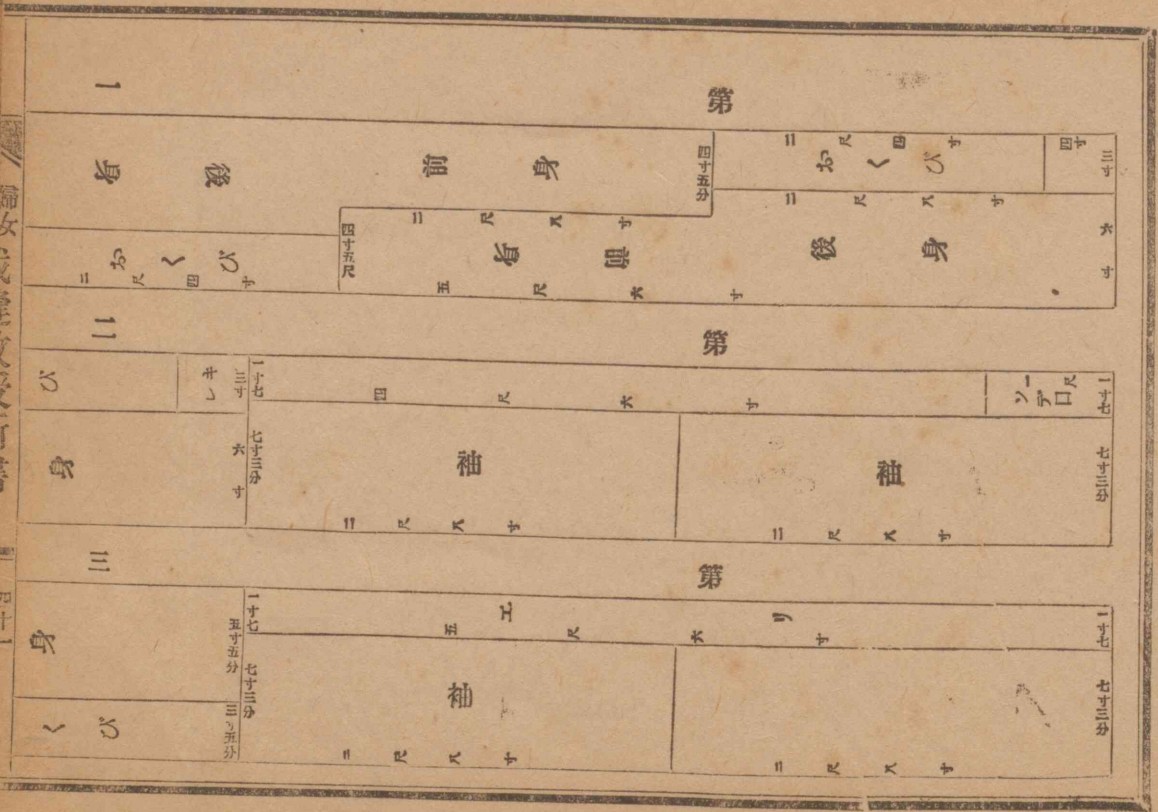
下に示せるものは九寸巾のきれ一丈二尺二寸にてたつことを示したるものにしてこれを二つ身のたち方といふしかれども一つ身の大なるものとかくべつの違ふことなければこゝにはくわしくのせず

尤もこれは裏表のあるきれにてはたち得ざるものにしていづれもうらおもてのなきものにてたつことゝ知るべしこれも亦寸尺の長短によりて或はちゞめ或はのべてよろしきにしたがふべし唯だおくび下りに氣をつけんことを要すべし

是より三つ身のたち方を示さん

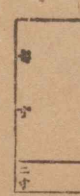


たち方



んことを要すべし

是より三つ身のたち方を示さん



以上に示したる所のものはいづれもみな九寸巾一丈四尺にて裁つところの法にして第一圖は通常のたち方なり第二圖とこれも通例のものなれども大に便利よきものなり第三圖は廣前のたち方とてむかゑより在きたりのものなれどもわまりにこのもしきたち方にはあらず三つの圖にていづれを

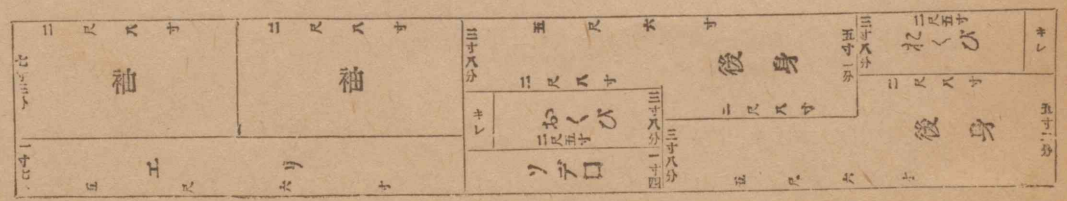
て裁つところの法にして第一圖は通常のたち方なり第二圖
えこれも通例のものなれども大に便利よきものなり第三圖

は廣前のたち方とてむかゑより在きたりのものなれどもわ
ずかにこのもしきたち方にはあらず三つの圖にていづれを
一番よきやと問はゞ第二の圖をよしとす、第二の圖にてお
くびを袖のわきよりとり衿をうしろ身のわきにてとるの裁
ち方ありこれもあしきにはあらねどもかくするときは紅り
を中にてつゝかざるべからず故にまづ圖に示したるものを
よろしとなすなりもし布片の一丈四尺より長きときはいか
やうとも裁ちかたのあるなりよろしくその時々によりて然
るべくもてあつかふべし

右に示したるものはいづれも両面地のきれに限るものにし
もし片面の地なるときはこの法によるべからず尤も二枚を
かさねてたつときは身ごろを双方よりゆづり合すものなれ
ばたとひかためんにて裏おもてあるものなりとも差支ある
ことなしされども二枚を同時にたつごときはまれにあるべ
きことなれば片面の布片にてたつときのしかたを左に示さ
んとすこれは大に心得となるべきことなり

左に示せるものは九寸巾のきれ一丈四尺にて裁つものにし
て先づ五尺六寸をきりはなしそのわきにて一寸七分の巾に

えりを取り他を袖となしてこれを二つにわけ二尺八寸づゝの袖を得る則ち一尺四寸のたけとなるなりさてそれより三寸八分の巾にてたてを二尺八寸だけ折りて裁ちそのたちぎはより横にきりはなし又一方より三寸八分の巾にて二尺八寸をたち横に餘の一方にきりとなすその餘は一寸四分のかぎにて則ち三寸八分の巾を以て二尺八寸たてにきり放すなりされば五寸二分巾二尺八寸と三寸八分巾二尺八寸との二たきれを得べし五寸二分巾のものにて一寸四分巾に切て袖口となし他をおくびにあてゝ少しのきれを得べし又三寸八分巾のものゝおくびにあつるなりこの裁ち方は中々におもしろきよきたち方なれども一と剪刀にてもあやまれば衣服にはならぬものなれば能々心をつけて裁つべきべを圖につきて見るときは合点すべきなり



第一
袖
第二
後身
前身
第三
口
前身
後身
後身
前身
後身
前身
後身
前身
後身
八掛
八掛
八掛
おくびすじ
おくびすじ
おくびすじ
四寸五分
四寸五分
四寸五分

以上に示したる三圖中の第一圖は絹ゐる三つ身のたち方にして巾一尺五寸長さ一丈五尺のきれにてたつなりこゝにくゞ〳〵しく述べずとも圖を見ればおのづと知るべし唯だかくびにて三寸乃至四寸のきれをのこすべし故にもし身丈けを二尺八寸とし袖も二尺八寸となさば一丈四尺のきれにて

以上に示したる三圖中の第一圖は絹るゐ三つ身のたち方にして巾一尺五寸長さ一丈五尺のきれにてたつなりこゝにく

ど〳〵しく述べずとも圖を見ればおのづと知るべし唯だかくびにて三寸乃至四寸のきれをのこすべし故にもし身丈けを二尺八寸とし袖も二尺八寸となさば一丈四尺のきれにて裁つことを得べしと知るべきなり

第二圖は木綿もの八掛つきのたち方にして則ち九寸巾一丈八尺を要するものと知るべし先づ六尺を以て袖と衿とにあて二寸巾をたちてえりとなすそれより四尺のところを四寸五分横にたち其内にて三寸巾をきり落しておくびとおくびうらとにあて更に圖の如くに分解してたつなりさて前に四寸五分たちたる所より縦に三尺たち横に一方へ四寸五分きりおとす則ち一方の身ごろにしてその下にて長さ一尺をきりてうしろ八掛となす又一方の身ごろをとらむには長きところより六尺の所にて横に六寸をたち前のかきになりしところを一寸五分あけてきりとなすなりその餘は前に述べたる如く衽とおくびうらとをとり更にあまりにて八掛を取ること圖の如くすべし

第三圖は片面の絹るゐにて三つ身を裁つの法にしてそのくわしきは前の木綿もの片面地にてたちたるものとひとし陰

た巾に違ひあるまでと知るべし但し一尺五分巾にて長さ一丈四尺として示したり

下に示したるは大巾物にて八掛つきの三つ身をたつことにて則ち二尺巾長さ八尺一寸の布片にて裁ち得るものと知るべし

この裁ち方は先づ九寸五分巾にすべてたちはなしこれを五尺六寸きり更に二寸巾にたちはなして衿となしその餘は両袖なり餘を三寸五分巾にきり落しこれを二つにわけておくびらとなしその殘りは一方を二寸五分巾に又他の一方を二寸五分巾に斜めにたちて両のおくびとなすなりそれより他の布片を取りて五尺七寸にきりこれを身頃となして圖の如く

らとなしその殘りは一方を二寸五分巾に又他の一方を二寸五分巾に斜めにたちて両のおくびとなすなりそれより他の布片を取りて五尺七寸にきりこれを身頃となして圖の如くにたつべしその餘は前とうしろとの八掛なりと知るべし

これより三つ身の縫ひ方を示すべきなれどもこれは一つ身もさしたる異なりしことなければ今更に述ぶべきの要なしと信ずればこれを畧しぬ八掛つきに至りては後に袷又はわた入などの縫方を示すにあたりてこれをのべん

左に三つ身仕立わげの圖をかゝげて參考となさん且つその所々につきその寸法を示せば概ね左の如し

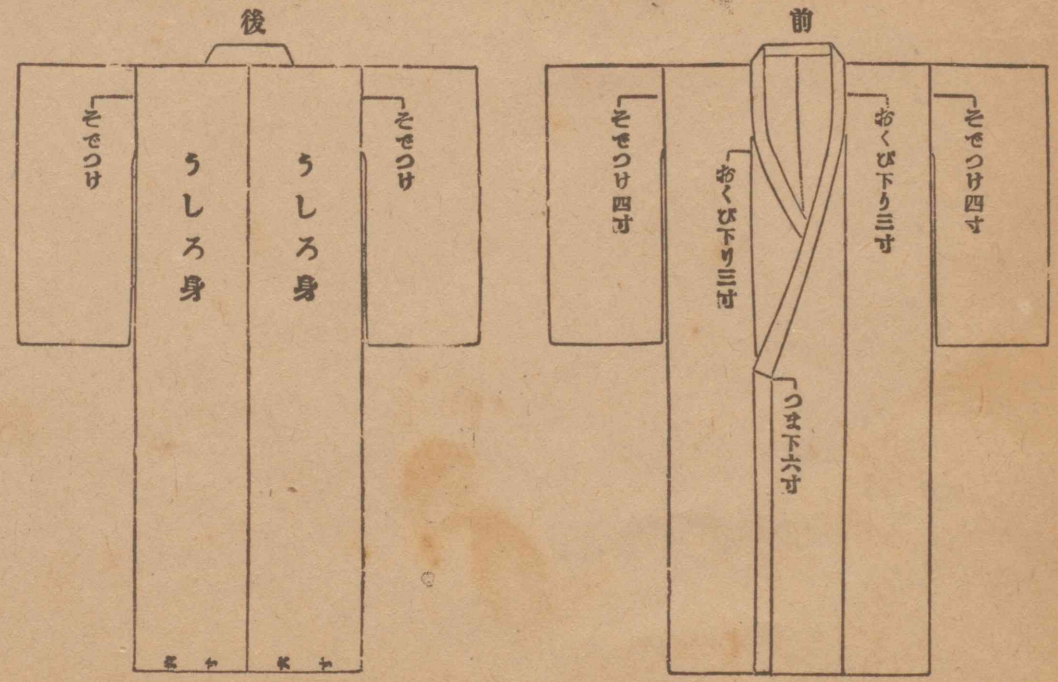
○おくび下りは三寸を目あてとす

○つま下は五寸五分より六寸までとす

○袖つけは四寸より五寸以内とす

○後巾は六寸とすれどもこれは其布片によりて一ばいに縫ふべし

○ゆき丈けは一ばいにすれども先づ一尺一寸より一尺二寸までとす但しぬい上げするは勿論なり



○四つ身の裁ち方

四つ身のたち方にも樣々ありて一樣ならず左にその最もよきものゝみを示さん

○四つ身の裁ち方

四つ身のたち方にも様々ありて一様ならず左にその最もよきものゝみを示さん

第

袖　袖　ひゝなし　ひゝあり

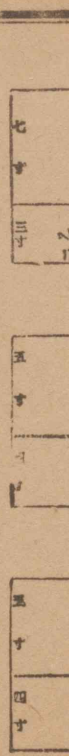
第

袖　袖　身頃　ひゝあり

第

袖　袖　身頃　ひゝあり

右に示したる第一の圖は九寸巾の布片長さ二丈二尺八寸を以て裁つものにてこれを四つ身の捧おくびのたち方といひ又は四つ身の車だちともいふ最も容易なるたち方なり唯だその布片は他より少しく多く要すべし然れども後の爲め



右に示したる第一の圖は九寸巾の布片長さ二丈二尺八寸を

以て裁つものにえてこれを四つ身の捧おくびのたち方といひ又は四つ身の車だちともいふ最も容易なるたち方なり唯だその布片は他より少しく多く要すべし然れども後の爲めにはよろしとすこゝに之を詳細に述べずとも圖につきて一考すればおのづと分るべきなり第二圖はこれを四つ身つまみおくびの裁ち方といひ九寸巾のもの長さ一丈九尺六寸あれば十分なりとすさて何が故につまみおくびといふやと尋ぬるに圖中に前身とれくびとの間に点線とて……の如きものをつける處はこれを切りはなさずしてこの線のところをつまみて別のおくびをつけたるが如くに縫ひ示すのみなり最もたやすきことにして且つ布片を一つ〳〵に切りはなさざれば大に都合よきものといへり

第三圖に示せるものは第二圖と同寸のものにてたつ所の一種にしてこれを四つ身つまみ紅袖口のたち方といふ則ち前圖の如くにして唯だ衿のわきにて袖口を取らんとするか故に衽の内を二方ともに三寸五分づゝきりこみ且つ衿も短くして二尺二寸を以て袖口とするなり

これも一方とはいへどもあまりによき裁ち方とはいひがたし然れども或る國々及び田舍などには折々このみて用ゆる所あればこゝにこれを合せ記しぬ

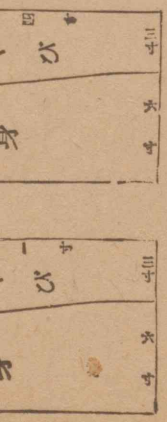
この圖も亦第二圖の如くに摘みおくびなれば前身にそふたるねくびとの間なる点線……の印はきりはなすものにあらざるを知るべし

猶ほ念の爲めに示すべきは衿肩のあけ加減なりこれは一方を二寸づゝたちて両方にて四寸の肩あきとなることゝ知るべし

以上に掲ぐるものゝ内第一圖と二丈三尺にて裁つを本法とすれども二丈二尺五寸若くは二丈二尺にてもたつことを得べきなり而して第二圖と第三圖とは一丈九尺六寸を通例となすもし布片の都合によりて五寸三寸の長短はどちらになるもこの法に依りてあちらにて一寸こちらにて五分を減するやうなさば如何やうともなるべきなり

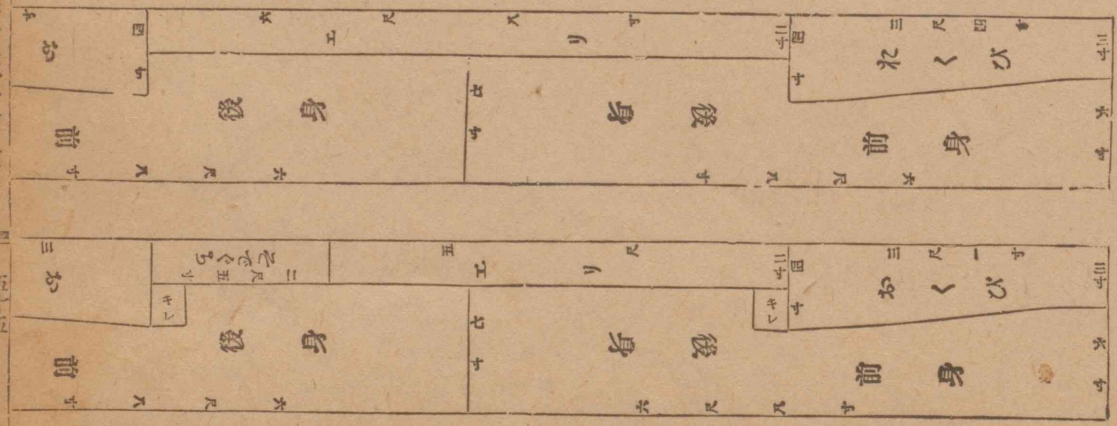
これより四ッ身逆おくびの裁ち方を示さん尤もこれにも袖口をも合せて取ることゝあれば左に二圖をかゝげんとす

上の圖は四ッ身逆おくびの裁ち方にして下の圖は同じ

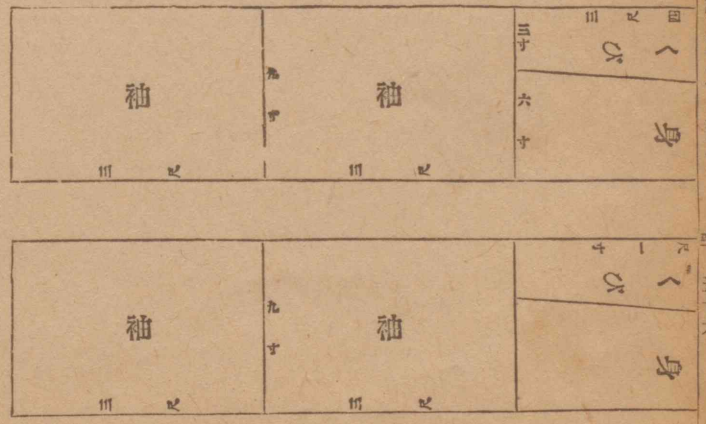


これより四ッ身逆おくびの裁ち方を示さん尤もこれにも袖口をも合せて取ることあれば左に二圖をかゝげんとす

上の圖は四ッ身逆おくびの裁ち方にして下の圖は同じく袖口をも合せて取るの裁かたなりいづれも九寸巾の布片一丈九尺六寸を以てたつべし而して上の圖はいつも多く用ゆるたちかたなれども下の圖に示したるものはありふれたるものにあらず且つあまりよきたち方にはあらざれば心すべきなり唯だいな

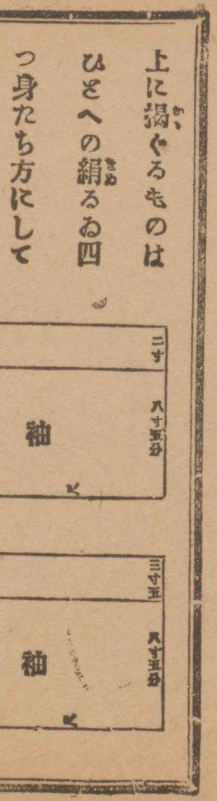


かにてはこれを用ゆるところ多けれ、ばこゝに併せて示せしのみ何故に下の圖はよろしからぬぞといふに身頃の前身にて不揃のところあり其上にえりも短かくなるが故なり



右の他にも今二三の裁方あれどもこゝには之をはぶきぬこれよりは絹るゐにてたつことを示さんにこれもその寸尺によりていろ〳〵にたつことあり且つそのきれの片面なると両面なるによりてもさま〳〵あれどもそは木綿巾のものにて裁つ法によりて工夫すればれのづと合点し得べし故に今示すところのものゝ單衣の絹るゐたち方と八掛つきのたち方と二様にして示さん他は推すべきなり

上に掲ぐるものはひとへの絹るゐ四つ身たち方にして



今示すところのものは單衣の絹るゐたち方と八掛つきのたち方と二樣にして示さん他は推すべきなり

上に掲ぐるものはひとへの絹るゐ四つ身たち方にして巾一尺五分のきれ長さ一丈六尺二寸にて裁つものと知るべしこのたち方にて心をつくべきものは圖中に○印をつけたる所なりよろしく注意すべし又おくびは三尺四寸とあれども是は三寸れとしとすれば三寸あまり三寸五分下りとすれは三寸五分あまる

ものと知るべし則ちその餘りたるはされなり但し一尺五分巾とすれども もしそのされが五分身以上の巾あるときはれのづからたがひあるべし

下に圖せるものは則ち八掛つきのたちかたにしてこれは一尺二寸巾の絹ゐる長さ一丈九尺二寸にてたつことを示したるものなりとす圖によりてこれを解き示さば先づ六尺の長さをきりはなし一方にて三寸五分巾をきりて衿となしその餘の八寸五分巾六尺を両のそでとなすそれより四尺四寸のところにて一方より六寸則ち半巾をたち更に一方へ進んで三尺四寸をたち他の一方へきりはなす而してその手前にて圖の如くうしろ八掛うらおくび袖を

取るべしこれを其一方となす他の一方も亦かくの如くしてその餘の一尺あるものを二つにたてにきり前八掛となすなり但し衿巾は三寸五分なくとも三寸三分位にてよろしけれ

たち更に一方へ進んで三尺四寸をたち他の一方へきりはな
す而してその手前にて圖の如くうしろ八寸うちおくび袖を

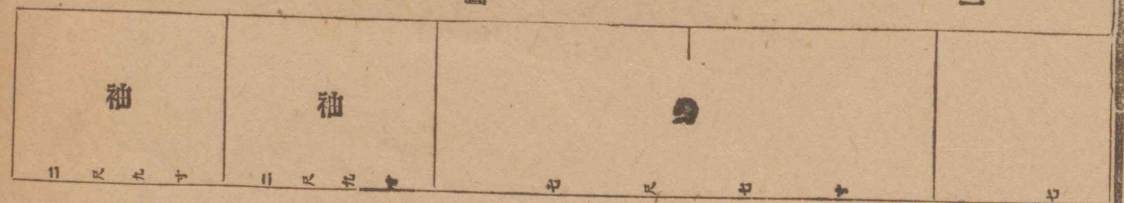
身体のたちた方

取るべしこれを其一方となす他の一方も亦かくの如くして
その餘の一尺あるものを二つにたてにきり前八掛となすな
り但し衿巾は三寸五分なくとも三寸三分位にてよろしけれ
ばその他はそでに入ることその人の意にまかすべし
この縫方も示すべきなれどもいづれもそのひとへなるもの
は同じことなれば改めて之を記さず衿、綿入は後にこれを
説かん
以上に示したるは一つ身二つ身三つ身四つ身の諸法にして
いづれも小兒の衣服なり則ち一つ身は生れてより二歳まで
位二つ身三つ身は二歳より六七歳ごろまで四つ身は七八歳
より十四五歳までのものにきせるなり
これより進んで本身のたち方につき示さんとす本身のたち
方は樣々にあるもの○にしてわづかなることにても大に着心
のよしあるもあり且つ反物の寸尺によりて不手際になるこ
ともあるなり加之ならず大なる背丈けの人と小さき人々に
よりても差別あるものなればそれらをよく心づくべし
猶序にのべんに反物一通例二丈八尺あるものなれども中に

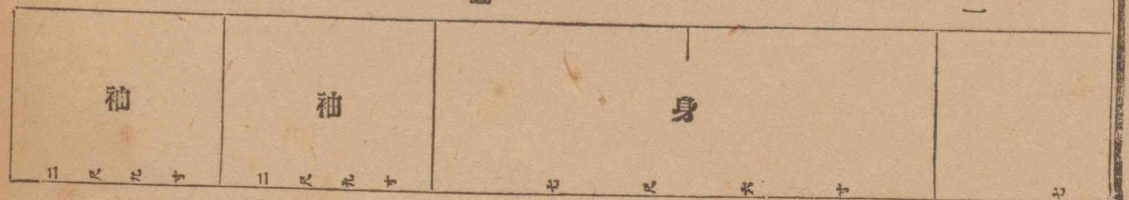
は二丈四尺二丈五尺など色々にあれば反物にてたゝんとすれば宜しく先づこれをときてその寸尺をはかり後に裁ち方を考ふべし

本身たち方の諸法

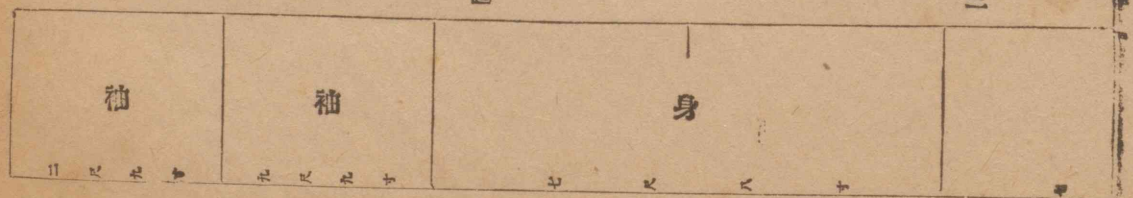
圖一



圖二



圖三



第一圖は棒裁の法とてこれを本身の通例とす則ち九寸巾二丈八尺のものにてたもつものなり一反二丈八尺あるものにてはこのたち方によるをよしとす身頃も七尺七寸あれば丈け三尺八寸五分となるなり

第二圖は本身つぎ棒だちといふつぎ棒とはおくびのさきを下た前にてつぐによれりこれは好まざるなれどもし長さ二丈六尺七寸位の外なきときは已むを得ずこれによらざるべからず尤もその着るところの人によりて三尺八寸まで脊たけを要せざるとき若しくゝ袖を一尺三寸位にてよろしとする人なるときは成るべくは棒だちを用ゐてこの法にはよらざるをよしとす

第三圖はこれを柳だちの法といふこの法は長さもみぢかくして殊に着るべき人の脊丈高き時に多く用ゆこゝに示したるものは二丈六尺四寸の反物にて三尺九寸の身丈けにたつものにしておくび下りゝ四寸五分となせり而して袖口として長さ一尺五寸五分のきれをも得る法なりこれは用ゐて大によろしきものとす

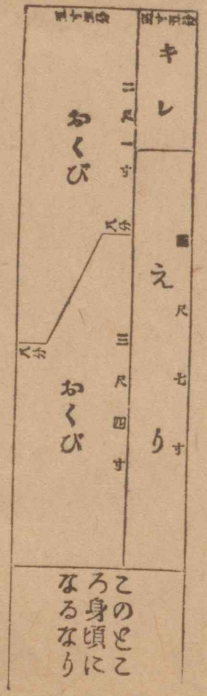
若し長さ二丈五尺の外なきときもこの法を斟酌して裁たば見ぐるしからぬものとなるべし

同じ二丈六尺七寸の反物にて猶ほ一つの法ありこれを本身

て長さ一尺五寸五分のきれをも得る法なりこれは用ゐて大によろしきものとす

若し長さ二丈五尺の外なきときもこの法を斟酌して裁たば見ぐるしからぬものとなるべし

同じ二丈六尺七寸の反物にて猶ほ一つの法ありこれを本身かぎだちの法といふ身丈けは三尺八寸五分として前の法より五分短しといへども亦便利よきたち方なれば左にこれを示さん尤も両袖は前法と同じく五尺八寸を取り身丈けも七尺七寸づゝ二つを取ればその裁ち方はこゝに之を略し唯だれくびとゐりのところのみを示さん



右の如くにするときはえり先きにて八寸丈けのきれを得べし尤も片めんのものにては裁ちがたし

以上の諸法とも襟肩のあけはいづれも二寸三分あけるを通常のものとす且つ襟巾と三寸五分と記したれども中には三寸八分を取るも決して狂に於て狹きとはなしと知るべし

前に示したる三圖及び鉤たちとも他にむつかしきことはな

しといへども第三圖の柳だちとこのかぎ裁ちとはれくびのところにて少しく心をつけざるべからず

これより大巾もの及び金巾などにてたつことを示さんとす

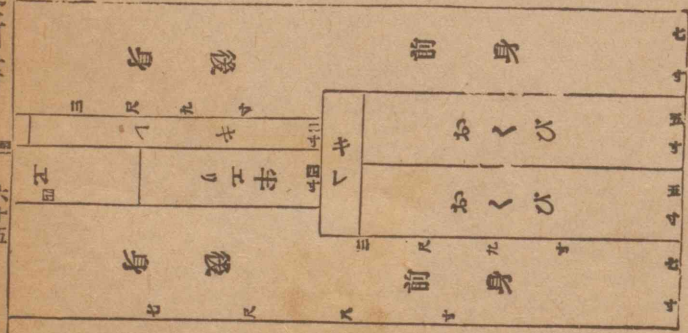
これ亦知らざるべからざるものなり

上に圖せるものは柳だちの法にして巾二尺五分ある大巾もの一丈一尺にて裁つもの下に圖せるものは巾二尺一寸あるもの一丈一尺にてたつものにしてこれをかぎ裁ちの法とい

上に圖せるものは柳だちの法にして巾二尺五分ある大巾もの一丈一尺にて裁つもの下に圖せるものは巾二尺一寸あるもの一丈一尺にてたつものにしてこれをかぎ裁ちの法といふ而して下圖のかぎと一寸づゝと知るべし且つ襟肩は同じく二寸三分なり

金巾は二尺四寸巾を通常とすればおのづからその裁ち方もことなれり左にこれを示さん

下に示すものは長さ一丈七寸を以てたつものにしてこれを棒だちといふこのたち方は両端七寸づゝのところより三尺九寸をたてにたちて中央一尺のところをきりはなしこれを両のわくびとなして四寸のきれを得べしそれより九寸巾に両方ともしるしをつけてたちとなしそ



の一方にて二尺九寸づゝをたち両のそでとなすべしかくするときは六寸巾にて六尺八寸のものを得べしこれを二寸巾にきりおとし袖口として猶きれを得るなりその餘は四尺七寸を襟に他の殘を半襟となすべしこれは頗ぶるよきたち方なり

又上に圖せるものは同じく二尺五分巾の長さ一丈三尺八寸を以て八掛つきの本身をたつ方を知らしむるものなり一丈三尺にても十分にたつことを得べきもその恰好よろしからずさればこゝには一丈三尺八寸として示せりしかしそのきれを見積りてこの法によらば五寸七寸は短

せりしかしそのきれを見積りてこの法によらば五寸七寸は短しといへどもよくたつことを得べし

是より絹るゐにて裁つこと

を示さん

好よろしからずさればこゝには一丈三尺八寸として示

右に示したる第一の圖は一尺一寸巾の絹二丈五尺五寸を以て裁つものにして袖はゆったりとしたるものなりこれをきぬ類の棒だちといふ何のまさらはしきこともなければくわしくは之を説かず

第二圖は一尺二寸巾長さ二丈二尺の絹布を以てたつものと

右に示したる第一の圖は一尺一寸巾の絹二丈五尺五寸を以て裁つものにして袖はゆったりとしたるものなりこれをきぬ類の棒だちといふ何のまきらはしきこともなければくわしくは之を説かず

第二圖は一尺二寸巾長さ二丈二尺の絹布を以てたつものにして巾は少しくひろけれども長さ前圖よりは三尺餘も短かければ中々にやゝこしきものなりこれを絹布にて裁つ略式となす成るべくは第一圖によるをよしとすおくびのところなど仕立あげては同じことなれども後々のためわしきものなり

第三圖は八掛つきのたち方にしてこれは尤も巾のひろきもの則ち縮緬のるゐにてたつものと知るべしこゝに示したるは一尺六寸巾のもの長さ一丈九尺にてたつ法にして最初長さ二尺五寸をきり落さこれにて四寸五分巾のうらおくび二つと三寸五分巾の半えりと同じ寸法の袖くちを取り次に八尺を以て身ごろとなし肩あけ二寸として七寸と九寸との身巾にたつべしその餘にて先づ八寸五分の巾にて袖を取り四寸五分巾をれくびとなして之を鈎だちになしその餘を三寸巾の襟とゐりさきとにわつるなり尤もこれは裏表のあるも

のにてはたちかたし

以上にて先づ着物の裁ち方を終りとなし袷と綿入との縫方を左に示さんとす

●袷の縫方

袷のたち方は前に示したるものと異なることなしさて其縫方を示さんに先づ第一に脊筋を縫ひ次に袖下を其定むる寸法の通にぬひその次には腋すぢを縫ひ終りてこれを他に置き夫より裏地の脊すぢを縫ひそで下をぬひ廻り而して後表と同じやうに両方の袖をぬひすそをあはせて衽をふかししつけをかけるものなりそれよりせすぢを綴ぢ又腋すぢに及び表とうらの袖口をぬひ口を定めれきて四止をなすべし又それより袖下から袖口をぬひまわりひつくりかへして表へ向け袖下より袖及び襟肩より裾に至るまでしつけをなす而して表裏との衽をもちて裾を合せ身とれくびとの裾をさだめ四枚一時に縫ひ合せて袖小口をぬふべしそれより又今一度ひつくりかへしてれくびの上にしつけをなし襟と襟さきとを縫ひ表へ向けて襟巾をさだめ而してくけ付けるものと

知るべし

又心得おくべきは男子のものと女子のものとはその縫ひかたにつき少しく異なりたるところありその異なる点をわ

度ひつくりかへしてれくびの上にしつけをなし襟と襟さきとを縫ひ表へ向けて襟巾をさだめ而してくけ付けるものと

知るべし

又心得おくべきは男子のものと女子のものとはその縫ひかたにつき少しく異なりたるところありその異なる点をわぐれば女子のものは初めに袖口をつけ小袖口を合せて袖下にぬひ廻り袖巾をれたつて表裏とも八つ口の後を合せ又表の方も同じ様にして四枚一時に袖下を縫ひ而して後男子のものと同じやうに縫ふべきものと知るべし

●綿入の縫方

綿入のぬひ方は初めにへら付けを爲し袖下より袖口を縫ひまわり夫より脊すぢ、脇すぢをぬひ身の前に折りて衽を付け次に襟をつけ裾を合せおきて表にをりかへし押紙をなして綿を入るゝなり左れどおくびをつけたる時には衽の方へ折り襟をつけたる時ええりの方へ折るべきものなり又絹物なれば両方の裾をぬいて後綿を入るべし

又廣袖口のものならんには袖口のおもてとうらとを合せて袱をぬひそれより袖下及び八つ口をぬひ表そでの身にぬひつけ而してうらの袖口をぬひつけざる前に綿を入るべきな

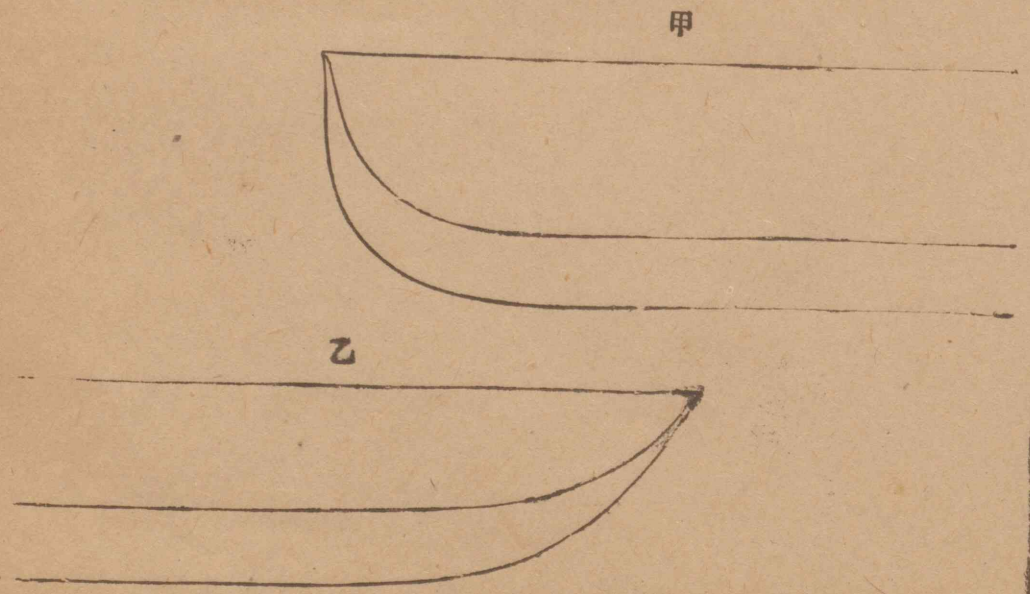
り

綿を入るゝの方は初めに身の表をうしろに向け袖も亦かくの如くにしてそでも身もうしろにて別に綿を入れそれより袖をうえろそでより前そでへ返してまへ袖にわたを入れうしろの身を前にひつくりかへして又前身へもわたを入れ裾小口へはぼよく口わたを入れおき裾より脊うらの明きしところへ向けてひつくりかへすものなり綿の多きと少なきとは能くみはからひてその厚さを同じやうにしたかひくのなきやうに能く心を用ゆべきなり

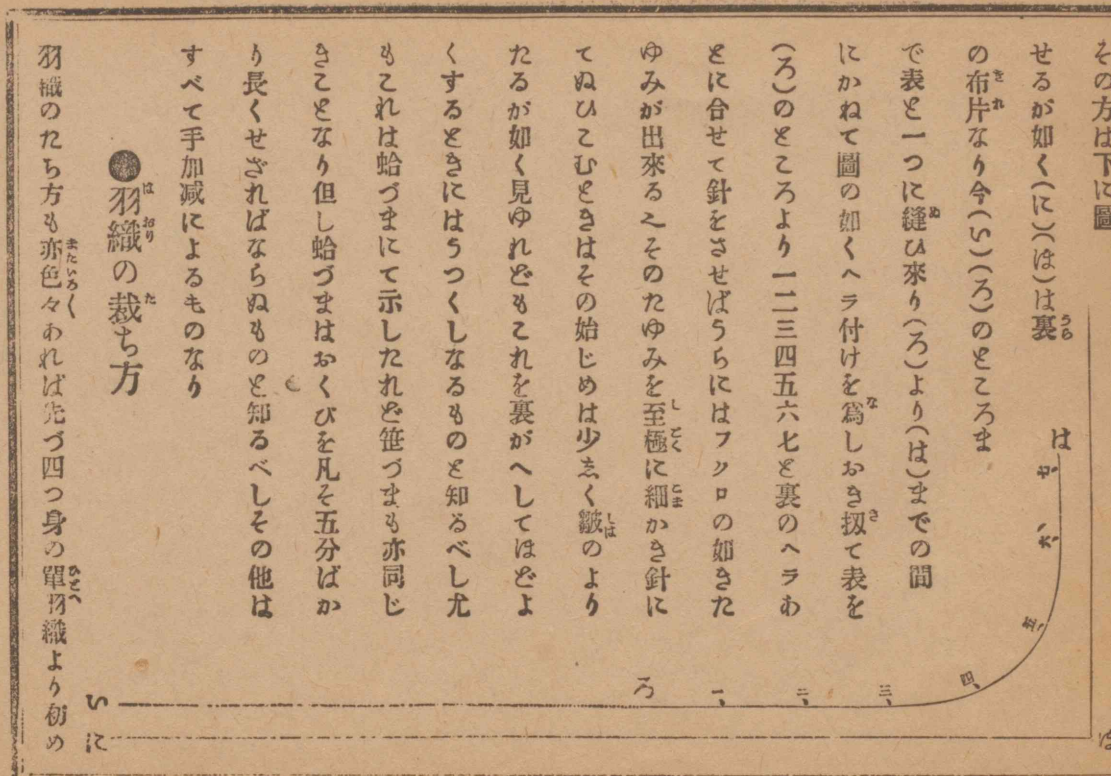
次に示すべきは裾の縫ひ方なり衣服の内にて縫ひにくきところはつまを一番とす裁縫の上手下手は多くこのつまにて見るといふ餘ほど大切なるものなり而えてその縫ひやうは中々筆紙につくしがたく口傳にあらざれば分り得がたしといへども左にその大要を圖して示さんとす

甲の圖を蛤づまといひ乙の圖を笹裾といふ甲はやゝ急にして乙は緩なりおの〳〵その好むところによりていづれを用ゆるも可なり而えてそのぬひ方は同じことなり唯だ形によ

て乙は緩なりおの〳〵その好むところによりていづれを用ゆるも可なり而してそのぬひ方は同じことなり唯だ形によりて手加減すべし

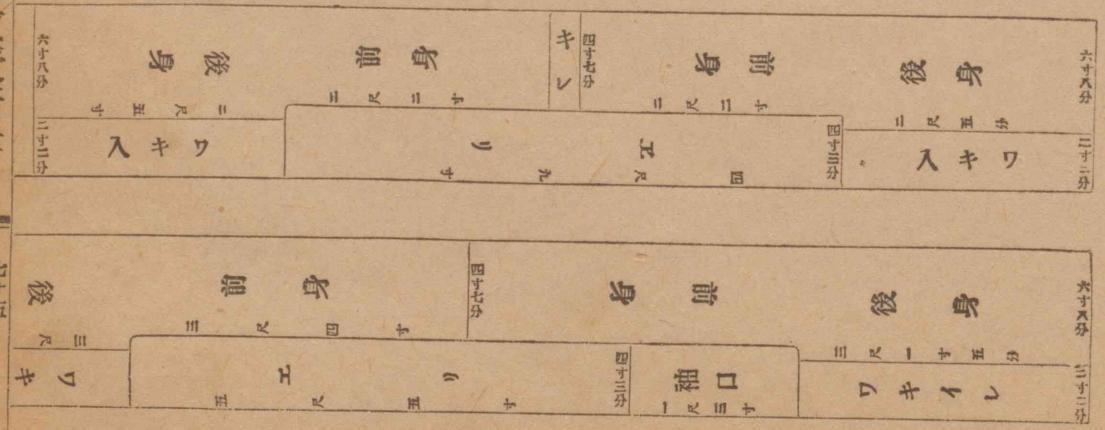


その方は下に圖せるが如く(に)(は)は裏の布片なり今(い)(ろ)のところまで表と一つに縫ひ來り(ろ)より(は)までの間にかねて圖の如くヘラ付けを爲しおき扨て表を(ろ)のところより一二三四五六七と裏のヘラわとに合せて針をさせばうらにはフクロの如きたゆみが出來るそのたゆみを至極に細かき針にてぬひこむときはその始じめは少えく皺のよりたるが如く見ゆれどもこれを裏がへしてほどよくするときにはうつくしなるものと知るべし尤もこれは蛤づまにて示したれど笹づまも亦同じきことなり但し蛤づまはおくびを凡そ五分ばかり長くせざればならぬものと知るべしその他はすべて手加減によるものなり


は
ば
ば
ば

次第に進まんとす

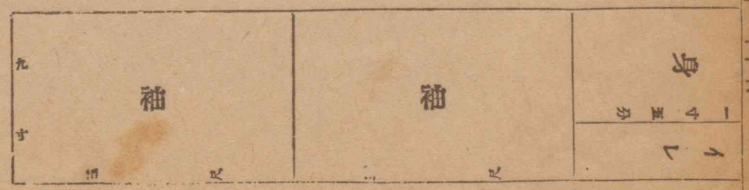
上に示すところのものは九寸巾一丈五尺を以て裁つものにして袖を六尺とし前身を二尺二寸後身を二尺五分とし則ち一寸五分のさがりとなる脇入は圖の如くすべしといへども袖付け及び人形にて凡そ八寸の餘りを生ずべければ中間なるそれをつぎたして袖口となすも可なり而して羽織は衣服とは違ひ襟肩を圖の如く丸めるものと知るべし



羽織の裁ち方

羽織のたち方も亦色々あれば先づ四つ身の單羽織より初め

右は單の羽織にして下に圖せるものは袷のたちかたなりこれを折返しつきの裁ち方といふ同じく九寸巾長さ一丈九尺のものを以てたつものにして袖よ六尺となし身頃と前身を三尺四寸に後身を三尺一寸五分に則ち二寸五分のおとしとなるこれを折返すにはその人の身丈によりてもし二尺の丈けと假りに定めなば前身後身とも前に示したる丈けの内二尺を引き去りたるものはかへしとなるなり而して前身のわきにて襟と袖口とを取り後身のわきにて腋入を取るなり是は一丈九尺と假に定めたるゆへ圖の如しといへども折返しを少なくして裏を多く付けんと思ふゝこれより短きものにても足れりとすかゝる時とよろしく單羽織のたち方などを照し合せて裁つべきなり



●女本身羽織ひとへの裁方

女の羽織をたつてもいろ〳〵あり

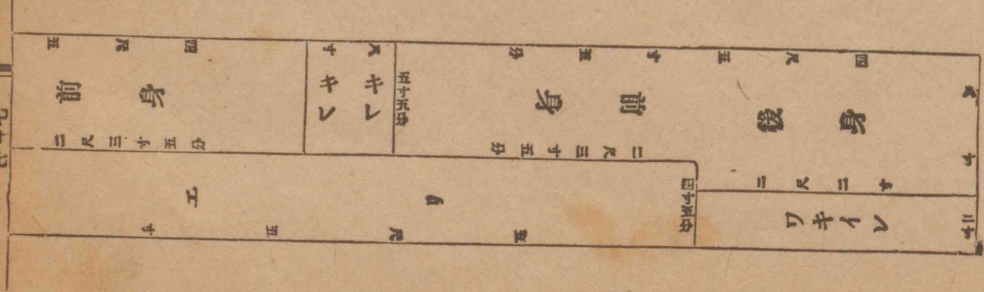
を照し合せて裁つべきなり

●女本身羽織ひとへの裁方

女の羽織をたつにもいろ〳〵ありといへども普通のたち方は則ち下に圖せるが如く假りに一尺巾の布片一丈六尺となし示せり

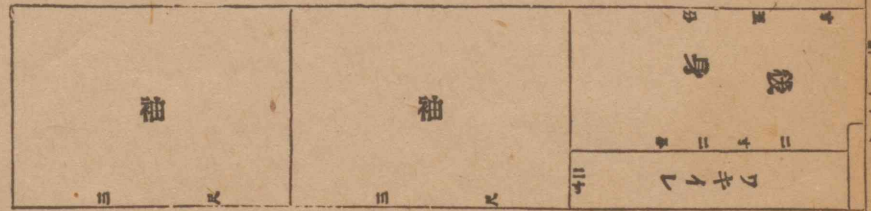
その裁ち方後身を二尺三寸となし前身を二尺三寸五分と則ち一寸五分の前下りとし身頃の總たけを一丈としてきりはなし両方より二尺二寸づゝの所にて箆つけをなし横に四寸五分をたちそのたち際を縦に五尺五寸切りおとして襟となし後身のわきにて二寸巾をれとしてれを腋入となすべし

かくの如くするときは身ごろの中ほどにて両方に四寸づゝ合せて八



寸のきれを得べしこれと縫ひこむか又はきり去るか思ふがまゝなりこの裁方にて猶ほ二寸をちゞめ一丈五尺八寸にてもたつことを得べし但しこのたち方は略だちのまかたなりと知るべし何となれば襟にて餘はど無理なるたちやうなればなり而して十分に一尺巾あるものにあらざれば身巾せまくして用にたちかたし

序でにこゝに辨せんに世間往々の書物を見るときは前圖の如くにして前身のわきより襟とわき入れを取り後身のわきより袖口をとるなど示したるものあり是等は大なる誤りといふべし何となれば前身のわきより襟とわき入れを取らんとせは腋入に一尺四寸と假定せば前身を二尺五寸とするも三尺六寸の襟となるの外なし然るに襟のなが

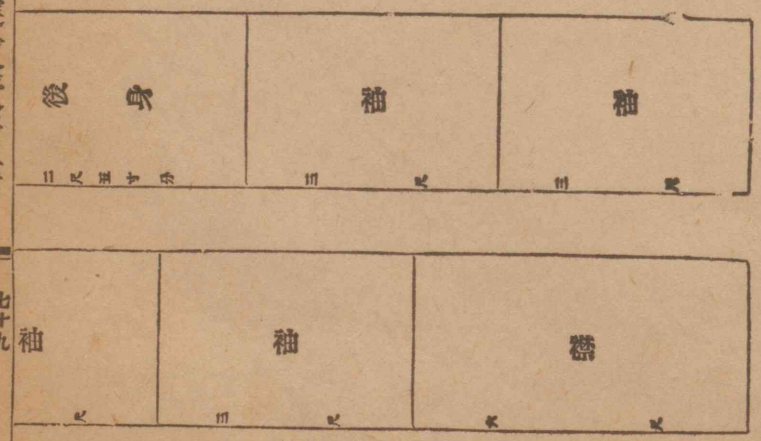


がさは二尺五寸の前身を假りに二寸縫ひこみて二尺三寸の丈とするも両方にて四尺六寸を肩の廻り五寸とを要すべし則ち五尺一寸を襟の長さとせざるを得ず左すれば現に一尺

き入れを取らんとせは腋入に一尺四寸と假定せば前身を二尺五寸とするも三尺六寸の襟となるの外なし然るに襟のな

がさは二尺五寸の前身を假りに二寸縫ひこみて二尺三寸の丈とするも両方にて四尺六寸を肩の廻り五寸とを要すべし則ち五尺一寸を襟の長さとせざるを得ず左すれば現に一尺四寸の不足となるなり斯くの如きが故によろしく注意して實際に寸尺を案せざれば大なる裁ち損じを來すことあるべしつゝしまざるべからざるなり

こゝに圖せる所の上の圖は本身羽織のたち方にて九寸巾長さ二丈二尺五寸を以てたつものなりそのたち方は前に示したるか如くにして圖によりてたゝば可なり腋入の三尺二寸とあるはこれを二つに分けて一尺六寸づ



つを以て一方の腋いれをするなり尤も大人の羽織なれば袖を一ばいにつけるがゆへに腋入もおのづから短くてよきなりよろしく心を用ゆべし

又下に示したる圖は折返しの本身羽織裁ち方にして則ち九寸巾二丈八尺を以てたつものなりこれにも畧だちの法あり長さ二丈五尺にてたつべしといへどもこれはこゝに省きぬ

折返しの寸法はその人の身丈けによりてよろしきに從ふべしその他はすべて前に示したるものと同じきなり

絹類にて裁つ法

折返しの寸法はその人の身丈けによりてよろしきに從ふべしその他はすべて前に示したるものと同じきなり

●絹類にて裁つ法

第一圖

第二圖

第三圖

第一圖に示せるものは三つ身羽織の裁ち方にして一尺五分巾の絹るゐ長さ九尺七寸を以てたつものとなす尤も片めんのものにてはこの圖によるべからず腋入れはこれを二つに分けて用ゆべし尤も少しくみぢかければ襟が四尺六寸までは入らざるものなれば襟の内にてよきにはからふべしすべてその人の身丈けによりてえりをはかり袖つけ及び八つ口によりて腋入れをはかるべきなり

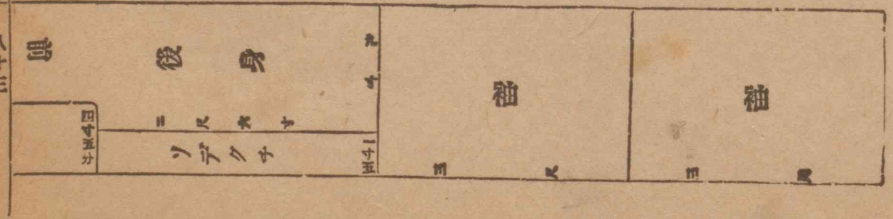
第二圖は片面なる絹るゐにて三つ身の折かへし羽織をたつものにして圖によりて考ふればおのづから會得すべし唯だあまりよきたち方といふべからず何となればすべて折返しといふものは切らずして折りかへすことなるをこの法は後ろも前もともに繼ぎて折返しとなすなればなりしかしこの圖の如く長さ僅かに一丈二尺に止まれば斯の如くせざるを得ざるなり

第三圖も同じく絹るゐの巾一尺五分なるものにて長さ一丈四尺六寸を以て四つ身の前折返したち方を示したるものにしてこれと後と總うらをつくるものなり而してこれも前の折返しは繼きたるものなり餘り感ずべきにあらざれども近

來この裁ち方を用ゆるもの多ければこゝにこれを示しぬその利益ありとする所は僅に一丈四尺餘のきれを以て折返しの如くに見せ得るによりて腋入は寸尺を合せてその殘りは

來この裁ち方を用ゆるもの多ければこゝにこれを示しぬその利益ありとする所は僅に一丈四尺餘のきれを以て折返しの如くに見せ得るによれり腋入は寸尺を合せてその殘りは袖口となすべし

この下に示したる圖は本身のひとへ羽織を一尺五分巾にて長さ一丈八尺ある絹るゐにてたつことを知らせたるものにして先づ六尺をとりて袖となし襟は前身のわきにてとり而して両の前身の中ほどにて腋入を取るのたちかたなり則ち身頃は五尺四寸づゝとなし前身を二尺八寸に後身を二尺六寸となす二寸の前さがりなりかくの如くにたつときは襟の長さと六尺八寸となる長さに於ては十分なりとす唯だ其巾が少しくせまきに似たり若し果してせましとせば前身の巾を五寸八分となすもしかるべきなりその邊のことはよろしくその人



の身丈や及び大小によりてしかるべくすべきものなり腋入は前にものべたるが如く二尺七寸のたけとせばその内より袖たけ一尺五寸をひきて一尺二寸となるにより一尺二寸あれば足るが如しといへどももしそれにて足らざる如きあらば前身を今五分だけは短かくして両方にて一寸をのばすも可なりこれ亦その時にのぞみて然るべくすべきなり而して巾が一尺より外なきときはその割合にて襟を四寸三分に前身を五寸七分に後身を八寸五分にするも可ならん稽は後身のわきよりは袖口をとるべきものとす

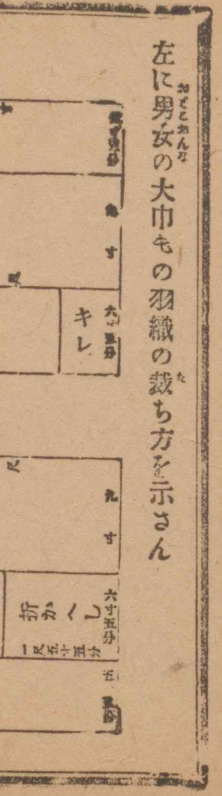
これよりは大巾ものにてたつべき三つ

だん〳〵と本身にいたるまでの裁ちかたを左に示す

右に示したる甲の圖は二尺一寸巾長さ六尺を以て三つ身の羽織をたつ圖なり乙の圖は同じく二尺一寸巾長さ六尺の片めんのものにて三つ身の羽織をたつなり同じく三つ身にて

寸尺も同じけれども乙圖は前身の巾少しくせまきをうらむ
尤も未だ六七歳の子供の着するものなればこれにても不足
ありとはいひがたし
さて右の二圖中乙の圖に示したる前身巾の眞中にてそで口
を取ることは餘ほど心を用ゆべきものなれば先づ以て筦つ
けをなし後にたつべきなり
以上の二圖はともに折かへしのたち方と知るべし
左に乙圖のたち方をくわしくのべて大巾物にてたつべきこ
との順序を示さんとすその餘はおして知るべきなり
先づ一方のわきにて三寸五分巾に切りおとすべし之を襟と
わき入れとの二つに圖の如く寸尺をはかりて横に切るこ
次にその切口より六寸五分の巾にて切りおとすべしこれを
両のそでとなす則ち中斷して三尺づゝのそでとなるなり
その次には一方の口にて両端より四寸づゝをさして印をつ
け三尺一寸のところまでたてにたつこれ則ち前身にしてそ
の中の三寸巾のものを切りれとしこれを二つに横に切りて
袖くちとなすなり

左に男女の大巾もの羽織の裁ち方を示さん



げ三尺一寸のものとなすべしたがつて前身にしてその中の三寸巾のものを切りれとしこれを二つに横に切りて袖くちとなすなり

左に男女の大巾もの羽織の裁ち方を示さん

第一圖

第二圖

第三圖

第四圖

第一圖は二尺一寸巾八尺五寸を以て女の羽織を裁つことを示したるものなり

第二圖は二尺一寸巾長さ一丈の片めん地を以て男もの折返

第一圖は二尺一寸巾八尺五寸を以て女の羽織を裁つことを示したるものなり

第二圖は二尺一寸巾長さ一丈の片めん地を以て男もの折返しつきの羽織たち方を示したるものなりこれは前身だけの打返しと知るべし而してこの折かへしは切りはなしたるにあらずよく思ひちがへなきやうにすべきなり

第三圖は一尺八寸巾長さ一丈三尺二寸を以てをりかへしの略たちを示したるものなりこの裁ち方は今多く用ゐらる極めて簡便のたち方なり尤も一尺八寸よりせまき巾のものにてはたちがたし且つこの上に二尺も巾のあるものなれば別にたち方もあるべければこれをたゝんとする前にその布片の巾をはかりて後にいづれの裁かたにするやを考へつくべきこと肝要なり

第四圖は二尺一寸巾一丈一尺二寸の長さにて同じく折返しにたつ法なり片面のものなればこれによるべからずといへども両面のものなればこの法によるときはよろしと知るべし

以上のたち方については敢てくどくしくのぶるの要なければこれを略しぬ

●ひとへ羽織の縫ひ方

ひとへの着物と同じく先づ袖をぬひおき次に身頃をとりて脊縫をなし後身の巾を定めて腋いれをつけ本身の腋いれなれば下を二寸もしくは一寸八分と定め上は眞中より折りて両方よりぬひこむこと左の圖の如し次に裾を縫ふに之身のたけを定めてしるしをつけ後身は眞直にぬひ前身は腋入れの所より前下りの所まで斜めにしるしをつけしつけをかけ裏へ折りこみて後に極めて密針に絎る可し、襟をつけるに丸えりなれは二つに折り耳の方を裏に縫ひつけ脊縫より一尺下りしところにて胴に「チ」をつけおくべしそれより襟巾をきめて表へくけるなり尤耳のたれる布片なるときは耳の方をつけるも耳のはるものなれば中より折りてその折りたる所をつけることを忘るべからず半襟なるときは先づ襟心の眞直なるを取りて表のえりに伸縮なきやう縫ひつけ前の如くにするなり凡べて羽織の襟は尤もつけにくきものなればよく心すべし畢竟これらは口傳にあらざれば明らめがたし猶はこゝに一つの注意すべきことは腋入を縫ひ終りたるときはその上の方は巾に多くの殘りを生ずるものなり斯る

る所をつけることを忘るべからず半襟なるときは先づ襟心の眞直なるを取りて表のえりに伸縮なきやう縫ひつけ前の如くにするなり凡べて羽織の襟は尤もつけにくきものなれ

ばよく心すべし畢竟これらは口傳にあらざれば明らめがたし猶ほこゝに一つの注意すべきことは腋入を縫ひ終りたるときはその上の方は巾に多くの殘りを生ずるものなり斯るときは内の方に眞直に折りて一度くけれき表に針目の見へぬやうにつけおくべきこと肝要なり

●袷羽織の縫ひ方

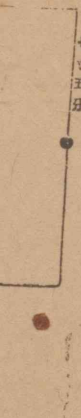
袖をこしらへること着物の如しさてそれより先づ裏と折返しとをつぎ合せ四枚同時に表の方より縫ふべしこの時にうらと折返しとつぎたるところをよく合せて待ばりをうち置くこと大事なりそれより人形をきめて腋いれをこしらひてこれを入れ後をぬふ時はうら向きにし前をぬふときは表向にして縫ふべしその前下りを定むることなどはひとへも同じことゝ知るべしこれを終らば單羽織の如くに襟をつけ次に袖をつけて全く整ひたるものといふべし

「チ」のつけ所はその人々によりて多少の差違あるべければその心すべし

●綿入羽織の縫ひ方

袖口をつけて表裏とも寸を合せ（裏は一分ばかり短く）別々にぬひおくべしそれより胴をぬふにて折返しと裏のきれとをつぎ合せ脊筋を表の上よりぬひ始めうちの上にて留め次に袖付及び人形を定めて腋入をこしらへしるしをつけ待ばりをうち表の上より縫ひはじめてうちに回りうちの上にて留めうらかへして表よりしつけをなすべし尤も腋入は箆付をなすこと肝要なりそれより前巾にて下りをきめて腋入にへらつけの通りにぬひつけ次に襟をうちに縫ひつくべし尤も綿入には所々みなしつけをかけることわするべからずこれより思ふまゝに綿を入れ了らば襟のところを裏と表と内より大針にてとぢつけそれより襟巾をきめて表へ絎つくるなりこれにて胴は出來あがれば次に袖をつくるなりすべて羽織の襟は前にも述べたる如く尤もつけにくきもの中にも綿入のゆりはことにむつかしければたゆみなどなきやうに心をつけるを肝要なりとす

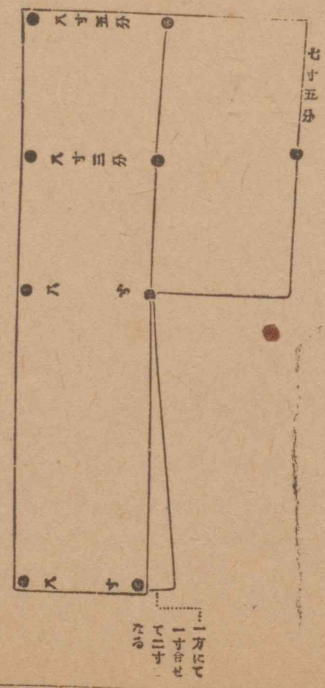
甲の圖に上を八寸五分とし下を次第八寸となせして身巾八寸にて仕立てるに肩ゆきは一尺七寸とせんか故にかくすべきなり



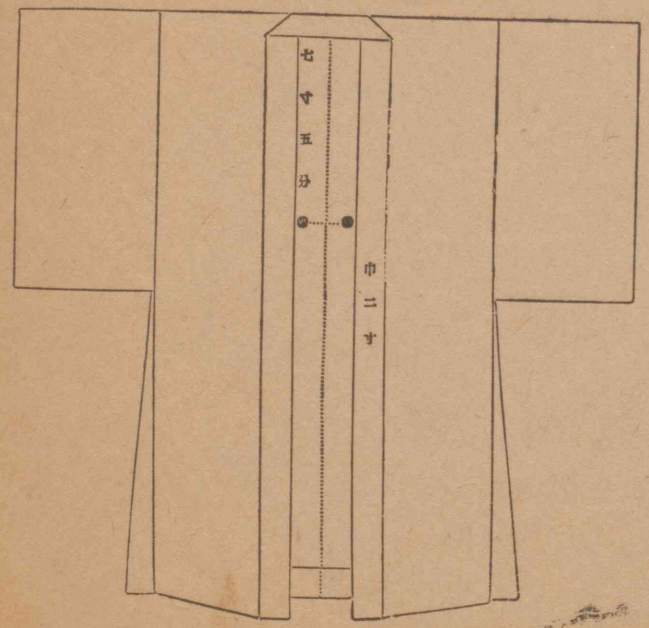
やうに心をつけるを肝要なりとす

甲の圖に上を八寸五分とし下を次第八寸となせしと身巾八寸にて仕立てるに肩ゆきは一尺七寸とせんか故にかくすべきなり

甲



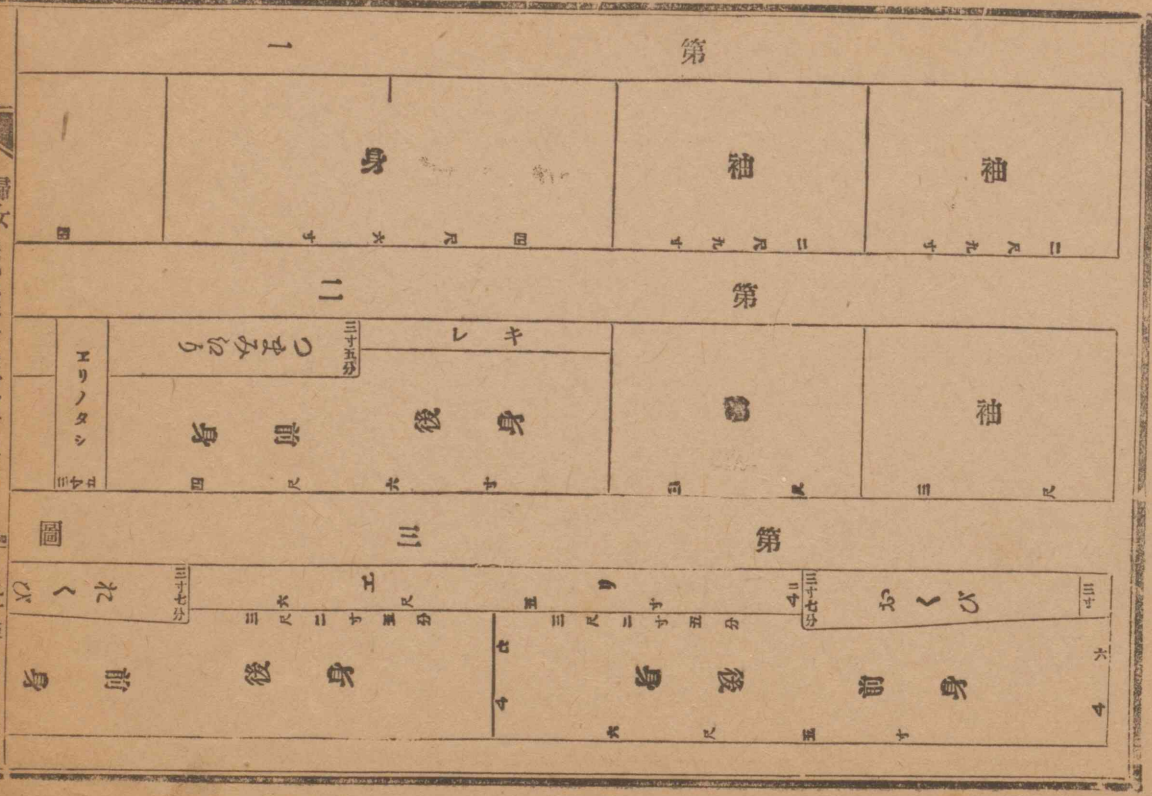
乙



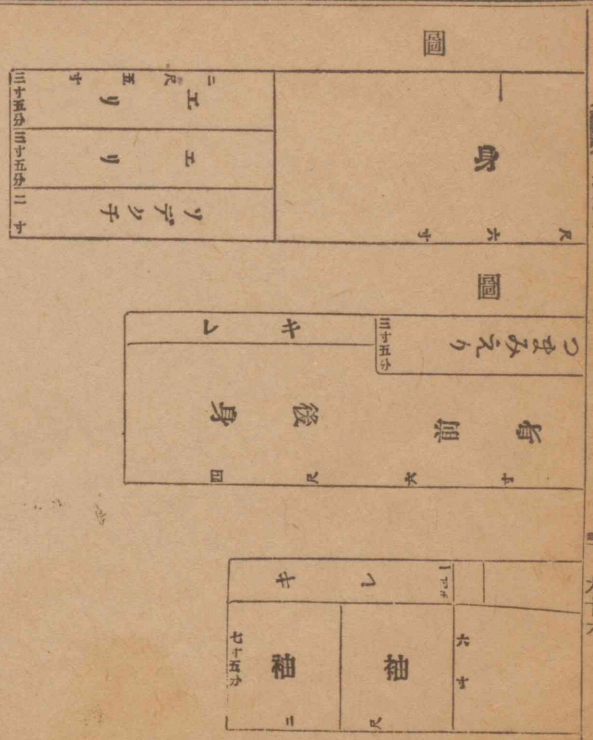
乙の圖の七寸五分と記したるは肩あきより「チ」をつけるところまでの寸法にして脊ぬひよりは一尺となると知るべし

以上を羽織のたち方及びぬひ方となすこの他猶は示すべきものありといへどもそは口傳にあらざれば詳にしかたしさてこれまでにしるしたることをよろしく反覆練習するときはこの餘はべつにその縫ひかたを示さゞるもただその裁ちかたさへ示さば合点すべしよりて左に半てん、シャツ、腹かけ、股引などの裁かたを示さんとす而してこれらにも大小の別ありて一樣ならざれどもこれを一々にかき上ぐるときは却て煩はしければその大体を示さんか爲めに一つもしくは二つだけを示さんとすよろしくかんがへ合すべきなり

尤も仕立かたの順序よりいへば半天及びシャツなどの如きは三つ身四つ身の單衣をおぼえたればこれにかゝるべきなれどもかくするときは甚だまぎらはしければかく後に出せしなり宜しく心すべし



れどもかくするときは甚だまぎらはしければかく後に出せしなり宜しく心すべし



右にかゝげたる第一圖は九寸巾一丈七尺五寸を以て半天をたつ法にして身たけ二尺三寸の仕立上げとなるものなり

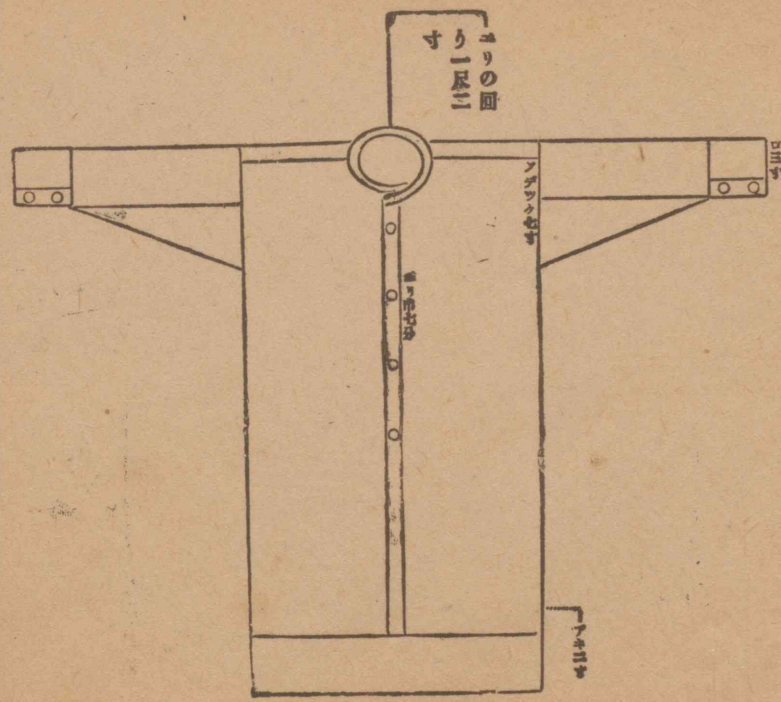
第二圖は同じく九寸巾一丈五尺五寸を以て半天のつまみおりたちかたを示したるものなり身たけは二尺三寸となるべし

第三圖は四つ身の筒そでをたつものにして巾九寸長さ一丈五尺にて圖の如くにたゝばゆったりとして小供の着ものとなるべし則ち身のたけは三尺二寸五分となるなり袖のこしらへかたは思ふまゝにすべしいかにするとも一尺づゝあらば澤山なり

第三圖は四つ身の筒袖にして巾九寸長さ一丈五尺にて圖の如くにたゝばゆつたりとして小供の着ものとなるべし則ち身のたけは三尺二寸五分となるなり袖のこしらへかたは思ふまゝにすべしいかにするとも一尺づゝあらば澤山なり

こゝに示せる甲の圖は二尺巾三尺を以て十歳位の子供のシャツをた

つ法なり袖の長は八寸袖には六寸五分前の長と一尺四寸後身の丈と一尺五寸五分肩あけは一寸八分となしたるなり乙の圖は大人のシャツをたつ法にして二尺巾五尺を以てたつべし寸法等は圖中に示したる如くにして恰好よく仕立あぐることを得べし左に仕立あげの圖を示さん



●袴の仕立方裁ち方

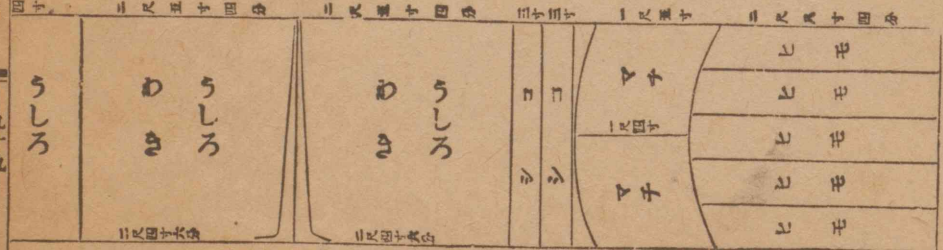
はかまには平ばかまと襠高袴との二種ありその裁方もことなれど平ばかまと近ごろ用ゆるものなればこゝにはこれを

●袴の仕立方裁ち方

はかまには平ばかまと襠高袴との二種ありその裁方もことなれど平ばかまは近ごろ用ゆるものなればこゝにはこれをはぶきまちだか袴につきてこれを説んに而して襠高袴にも大人のものと子供のものとあり一番まち高といへば九尺あまりあればたつことを得べくそれより一丈二尺一丈八尺等いろ〳〵裁ち方あれども多く書くは要なきことなればこゝには

九寸巾　長さ二丈四尺

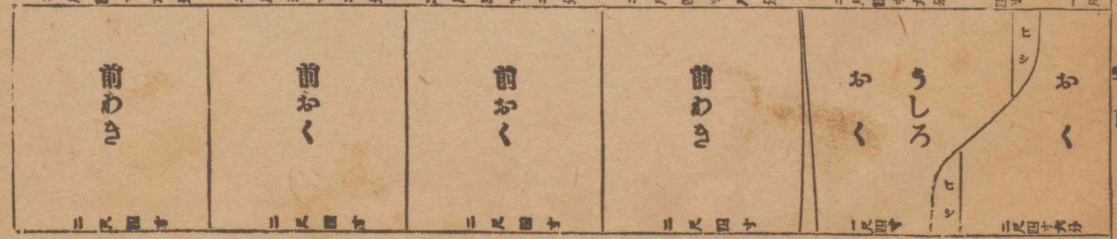
の布片を以て通常のたち方を示し合せてその縫ひ方を示さんとすこの九寸巾長さ二丈四尺といふは通常のはかま地の寸尺なりこのたち方もその丈けによりていろ〳〵あれども下に圖せるも



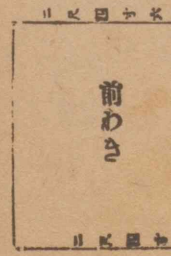
のは尤もたちやすく且便利よきものなればしか思ふべきなりすべて袴は前四巾と後四巾とより成るものにして裁ち方に心得べきと二方にて寸法の幾分づゝかちがふものなればなり何ゆへに少しづゝちがふかといふに仕立上げの圖に示したる如く前の方中ほどのみぢかきが故なりたち方は圖によれば能く分別すべきによりこれより縫ひ方をのべんとす

●縫方

先づ最初に後奥の一尺四寸の所へマチの一尺四寸のところは縫ひつけマチの一尺五寸のところを前れくの筋ちがひになりしところに縫ひ合せ一方の二尺四寸のところへ前わきの二尺四寸のところをつけ更に後おくのマチをつけたる一方二尺四寸六分わるところへ後わきの二



ひつけマチの一尺五寸のところを前れくの筋ちがひになりしところに縫ひ合せ一方の二尺四寸



のところへ前わきの二尺四寸のところをつけ更に後おくのマチをつけたる一方二尺四寸六分あるところへ後わきの二尺四寸六分ある所をぬふべしこれを片方となす

それより前脇の上より八寸五分の所にしるしををつけそれより下をぬひつけ針ぐめをなし次に裾を細かく紩けまわしこれより後わき四寸五分をうらへ折り紩けつくべし

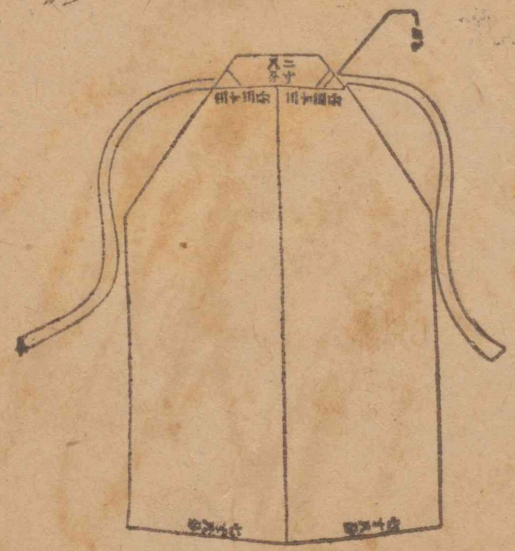
前わきは上を二寸五分表へ折り上を一寸にして脇付のしるしの所まで篦づけを爲し大針にぬひ外の方へ折りかへして中へ折り紩けつくるなり

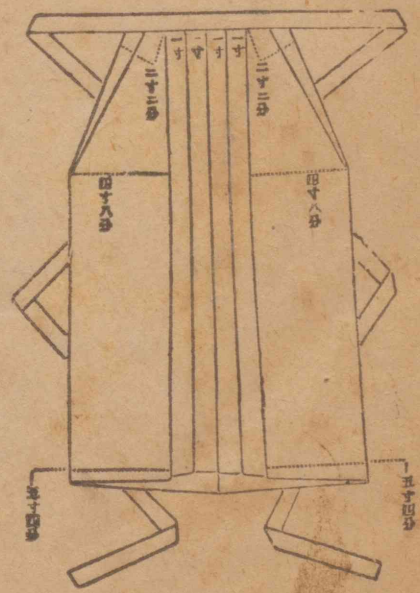
以上を一方のぬひ方となす他の一方もこれに同じさてマチをぬふには表へ一べんぬひこれを折りてうらがへしぬふべし

ひだは後の上の下に前を四寸五分上まへを三寸三分のところへしるしをつけ折目正しく下まで折るべし斯くするとき乞腰いたのところは六寸五分となるなり

上はひだを右二つ左三つに一寸づゝの巾に折るべしこれより腰板をつけ紐をつくることゝ知るべし

左に袴仕立上げの圖を示すべし





明治二十九年八月一日印刷
明治二十九年八月七日發行

明治二十九年八月一日印刷
明治二十九年八月七日發行
明治三十九年一月三日十二版

編輯者　大阪府東成郡清堀村番外千五百七十二番屋敷　的場孝

發行者　大阪市東區南久太郎町四丁目八十六番屋敷　武田福藏

印刷者　大阪市東區和泉町二丁目八番屋敷　前野茂久次

專賣者　大阪市東區今橋四丁目八番屋敷　寺井與三郎

半村居士佐藤勉先生著
新案註解　帝國用文五千題
行書活字紙數三百卅頁余　洋綴クロース仕立金字入　全一冊定價金貳拾五錢特別正價金貳拾錢郵稅八錢

半村居士佐藤勉先生著
新選　女子用文姫鏡
女禮式
行書活字紙數三百卅頁余　洋綴クロース仕立金字入　全一冊定價金貳拾五錢特別正價金貳拾錢郵稅八錢
附茶湯生花日用料理法